

07危防工第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-00 ○	表紙・図面リスト	A-10 ○	展開図・断面図
A-01-1	特記仕様書 1（建築新営）その 1	A-11 ○	基礎伏図・基礎詳細図
A-01-2	特記仕様書 2（建築新営）その 5	A-12	外構図
A-01-3	特記仕様書 3（建築新営）その 6	A-13	外構詳細図
A-01-4	特記仕様書 4（建築新営）その 7	A-14 ○	日影図
A-01-5	特記仕様書 5（建築新営）その 1 1	A-15 ○	ボーリング柱状図
A-01-6	特記仕様書 6（建築構造）その 1		
A-01-7	特記仕様書 7（建築構造）その 2		
A-01-8	特記仕様書 8（建築構造）その 3	E-01-1	特記仕様書（電気設備工事）その 1
A-02-1	鉄筋コンクリート造 配筋標準図(1)	E-01-2	特記仕様書（電気設備工事）その 2
A-02-2	鉄筋コンクリート造 配筋標準図(2)	E-02	幹線設備平面図
A-02-3	鉄筋コンクリート造 配筋標準図(3)	E-03	電灯コンセント設備平面図・凡例
A-03 ○	付近見取図・全体配置図		
A-04 ○	配置図・仮設計画図		
A-05 ○	敷地求積図(1)(既存総合体育館)		
A-06 ○	敷地求積図(2)(ボクシング場仮想区分)		
A-07 ○	建築概要・仕上表		
A-08 ○	平面図・建物求積図・建具表		
A-09 ○	立面図		

※○は計画通知提出図を示す

共通事項		課長	副課長	係長	係員	担当	工事名 07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺	佐賀県危機管理防災課	図番号 A-00
							図面名 表紙・図面リスト	設計 令和 年 月	1級建築士 第 号	

13 屋根及び とい工事	④ とい	<div>といの材種<div>(13.5.2、3) (表 13.5.4)</div><table><tr><th>種別</th><th>材質</th><th>径</th><th>施工箇所</th><th>備考</th></tr><tr><td>たてどい</td><td>・硬質ポリ塩化ビニル管 ・配管用鋼管 ・ステンレス鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管(ケー)</td><td>φ60</td><td>図示</td><td></td></tr><tr><td>軒どい</td><td>・硬質ポリ塩化ビニル管(ケー)</td><td></td><td>図示</td><td></td></tr></table><div>防露材の施工方法 放散量 ※☆☆☆☆</div><div>鋼管製の防露巻き ・適用する (工法 ※標準仕様書表13.5.4による) ・適用しない</div><div>とい受金物 材種 ※ステンレス製 (SUS304) ・標準仕様書表13.5.2による (溶融亜鉛めっき) 形状 ※市販品 (とい径100以下) ※25×4.5以上 (とい径100を超えるもの) 取付間隔 ・標準仕様書表13.5.2による</div><div>足金物 材種 ※ステンレス製 (SUS304) ・標準仕様書表13.5.2による (溶融亜鉛めっき) 形状 ※市販品 取付間隔 ・標準仕様書表13.5.2による</div><div>多雪地域 ・適用しない ・適用する</div><div>スレート (13.5.2) (表 13.5.3)<table><tr><th>種別</th><th>呼び</th><th>施工箇所</th><th>材種</th></tr><tr><td>・ろく屋根用</td><td>・ねじ込み式 ・</td><td>・80 ・100 ・125</td><td></td></tr><tr><td>たて形</td><td>・</td><td>・150</td><td></td></tr><tr><td>・ろく屋根用</td><td>・ねじ込み式 ・</td><td>・80 ・100 ・125</td><td></td></tr><tr><td>よこ形</td><td>・</td><td>・150</td><td></td></tr><tr><td>・バネ用</td><td>・ねじ込み式 ・差し込み式</td><td>・50 ・80 ・100 ・50 ・75 ・100</td><td></td></tr><tr><td>・バネ 中継用</td><td>・ねじ込み式 ・差し込み式</td><td>・50 ・80 ・100 ・50 ・75 ・100</td><td></td></tr></table></div></div>	種別	材質	径	施工箇所	備考	たてどい	・硬質ポリ塩化ビニル管 ・配管用鋼管 ・ステンレス鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管(ケー)	φ60	図示		軒どい	・硬質ポリ塩化ビニル管(ケー)		図示		種別	呼び	施工箇所	材種	・ろく屋根用	・ねじ込み式 ・	・80 ・100 ・125		たて形	・	・150		・ろく屋根用	・ねじ込み式 ・	・80 ・100 ・125		よこ形	・	・150		・バネ用	・ねじ込み式 ・差し込み式	・50 ・80 ・100 ・50 ・75 ・100		・バネ 中継用	・ねじ込み式 ・差し込み式	・50 ・80 ・100 ・50 ・75 ・100		14 金属 工事	<div>1 ステンレスの 表面仕上げ<div>(14.2.1)</div><table><tr><th>種類</th><th>施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)</th></tr><tr><td>※ヘアライン (HL) 程度</td><td></td></tr><tr><td>・鏡面仕上げ</td><td></td></tr><tr><td>・No.2B程度</td><td></td></tr></table></div> <div>2 アルミニウム及び アルミニウム合金 の表面処理<div>(14.2.2) (表 14.2.1)</div><table><tr><th>種別</th><th>色合い等</th><th>施工箇所 (成形版、笠木、建具以外)</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>・標準色 () ・特注色 ()</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table><div>陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色</div><div>3 鉄鋼の 亜鉛めっき<div>(14.2.3) (表 14.2.2)</div><table><tr><th>表面処理方法</th><th>種別</th><th>施工箇所 (手すり、タラップ以外)</th></tr><tr><td>溶融亜鉛めっき</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td><td></td></tr><tr><td>電気亜鉛めっき</td><td>・D種 ・E種 ・F種</td><td></td></tr></table></div><div>4 軽量鉄骨 天井下地<div>(14.5.3～4) (表 14.5.1)</div><div>野縁等の種類 屋外 ※25形 ・19形 屋内 ※19形 ・19形 ・屋外の軒天井、ビードロ天井等 野縁受、吊りボルト及びシャフトの間隔 ・900程度 ・ () 周辺部の端からの間隔 ・図示 野縁の間隔 ・300程度 ・ () ・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※図示 ・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合 補強方法 ※標準仕様書14.4.4(8)による ・図示 ・天井のふところが3.0mを超える場合 補強方法 ※図示 ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ・図示 補強方法 ・図示 ・屋外の軒、ビードロ等の天井における耐風圧性を考慮した補強 (1 一般共通事項の品質計画による) 補強箇所 ・図示 補強方法 ・図示 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による 屋外の軒天上、ビードロ天井等の工法 1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3) の風圧力に対応した工法</div></div></div>	種類	施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)	※ヘアライン (HL) 程度		・鏡面仕上げ		・No.2B程度		種別	色合い等	施工箇所 (成形版、笠木、建具以外)	備考		・標準色 () ・特注色 ()											表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)	溶融亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種		電気亜鉛めっき	・D種 ・E種 ・F種		6 金属成形 板張り	<div>(14.6.2、3) (表 14.2.1)</div> <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">製法</th><th rowspan="2">形状</th><th rowspan="2">板幅 mm</th><th rowspan="2">寸法 mm</th><th rowspan="2">厚さ mm</th><th colspan="2">表面処理</th></tr><tr><th>種別</th><th>色合い等</th></tr><tr><td>※アルミニウム</td><td>※押出し ・ロール ・プレス ・</td><td>・フラット ・目地有 ・目地無 ・凹凸 ・</td><td>※100 ・</td><td></td><td></td><td>※1.0</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・図示</div> <div>伸縮調整継手 ・設ける (施工箇所 ・図示) ・設けない</div> <div>屋外の軒天上、ビードロ天井等の工法 1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3) の風圧力に対応した工法</div>	種別	製法	形状	板幅 mm	寸法 mm	厚さ mm	表面処理		種別	色合い等	※アルミニウム	※押出し ・ロール ・プレス ・	・フラット ・目地有 ・目地無 ・凹凸 ・	※100 ・			※1.0																		7 アルミニウム製笠木 <div>(14.7.2、3) (表 14.2.1) (表 14.7.1)</div> <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">種類</th><th rowspan="2">製品幅</th><th rowspan="2">呼称 肉厚</th><th colspan="2">表面処理</th></tr><tr><th>種別</th><th>色合い等</th></tr><tr><td></td><td>・押出し250形</td><td>※240, 250</td><td>※1.6以上</td><td>・</td><td>・標準色 ()</td></tr><tr><td></td><td>・押出し300形</td><td>※300</td><td>※1.8以上</td><td></td><td>・特注色 ()</td></tr><tr><td></td><td>・押出し350形</td><td>※350</td><td>※2.0以上</td><td></td><td>・</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>※2.0以上</td><td></td><td>・</td></tr><tr><td></td><td>・板材折曲げ形</td><td>・</td><td>※2.0以上</td><td></td><td></td></tr></table> <div>棟上避雷導体システム ・無 ・有 (実厚2.0以上)</div> <div>笠木の固定金具の工法等 取付け用下地 ※標準仕様書14.4による 図示</div> <div>笠木の固定金具の工法等 1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3) の風圧力に対応した工法</div>	施工箇所	種類	製品幅	呼称 肉厚	表面処理		種別	色合い等		・押出し250形	※240, 250	※1.6以上	・	・標準色 ()		・押出し300形	※300	※1.8以上		・特注色 ()		・押出し350形	※350	※2.0以上		・		・	・	※2.0以上		・		・板材折曲げ形	・	※2.0以上			8 手すり及び タラップ	<div>手すり ・ステンレス製 SUS304 (14.8.2、3) (20.2.12) 表面処理 ※HL程度 ・No.2B程度 ・鋼製 表面処理 ※溶融亜鉛めっきC種</div> <div>タラップ ・ステンレス製 SUS304 スリッパ止め加工 ・有り ・無し ・鋼製 表面処理 ※溶融亜鉛めっき 標準仕様書表14.2.2による種類 ・C種</div>	15 左 官 工 事	<div>① 金属塗り 金属 ・現場調査材料 ・既調合材料 (材料 :) 既成目地材 ・設ける 施工箇所 (外部スロープ) 形状 (※図示) ・設けない 床目地 ・設ける 目地割り ※2m程度 (最大目地間隔3m程度) ・ 種類 ※押し目地 ・設けない 外装壁タタキ張り下地等の下地金属塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ※適用する ・適用しない ・防水剤 (品質・性能・試験方法) 建築材料等品質性能表による</div> <div>2 下系下地<div>(15.2.4)</div><div>下系下地 ・二層下地通気構法 ・単層下地通気構法 換気口部の措置 ・公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2) (ケ) ・直張りシートタタキ下地 ・直張りラシートタタキ下地 ・耐力壁、耐火構造、準耐火構造等の指定 () 建築基準法に基づく耐力壁、耐火構造、準耐火構造等の指定 ・ 下系材料 材料記号 () 種類 () 単面積当たりの質量 () ラシートの材料 下目による区分 ※Ⅲ 山高、山ビッチ、質量及び溶接ビッチによる区分 ※LS4 (建築基準法に基づく耐力壁) ・ ステップの形状及び寸法 直張りラシートタタキ下地で建築基準法に基づく耐力壁のラシートの施工 ・ せつこうボード及びせつこうボードの種類及び厚さ<div>(15.2.5)</div><div>種類 ・GB-R ・GB-L 長さ 木質系タタキ板の種類及び厚さ 種類 長さ 建築基準法に基づく耐力壁の指定<div>(15.2.6)</div><div>・指定あり ・指定なし 木ずり用小幅板の種類<div>(15.2.7)</div><div>・杉 (心去り材) ・せつこう系 ・タタキ系 (基礎立上り天端)<div>(15.5.2) (表15.5.1)</div></div></div></div></div></div>
		種別	材質	径	施工箇所	備考																																																																																																																																																									
		たてどい	・硬質ポリ塩化ビニル管 ・配管用鋼管 ・ステンレス鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管(ケー)	φ60	図示																																																																																																																																																										
軒どい	・硬質ポリ塩化ビニル管(ケー)		図示																																																																																																																																																												
種別	呼び	施工箇所	材種																																																																																																																																																												
・ろく屋根用	・ねじ込み式 ・	・80 ・100 ・125																																																																																																																																																													
たて形	・	・150																																																																																																																																																													
・ろく屋根用	・ねじ込み式 ・	・80 ・100 ・125																																																																																																																																																													
よこ形	・	・150																																																																																																																																																													
・バネ用	・ねじ込み式 ・差し込み式	・50 ・80 ・100 ・50 ・75 ・100																																																																																																																																																													
・バネ 中継用	・ねじ込み式 ・差し込み式	・50 ・80 ・100 ・50 ・75 ・100																																																																																																																																																													
種類	施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)																																																																																																																																																														
※ヘアライン (HL) 程度																																																																																																																																																															
・鏡面仕上げ																																																																																																																																																															
・No.2B程度																																																																																																																																																															
種別	色合い等	施工箇所 (成形版、笠木、建具以外)	備考																																																																																																																																																												
	・標準色 () ・特注色 ()																																																																																																																																																														
表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)																																																																																																																																																													
溶融亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種																																																																																																																																																														
電気亜鉛めっき	・D種 ・E種 ・F種																																																																																																																																																														
種別	製法	形状	板幅 mm	寸法 mm	厚さ mm	表面処理																																																																																																																																																									
						種別	色合い等																																																																																																																																																								
※アルミニウム	※押出し ・ロール ・プレス ・	・フラット ・目地有 ・目地無 ・凹凸 ・	※100 ・			※1.0																																																																																																																																																									
施工箇所	種類	製品幅	呼称 肉厚	表面処理																																																																																																																																																											
				種別	色合い等																																																																																																																																																										
	・押出し250形	※240, 250	※1.6以上	・	・標準色 ()																																																																																																																																																										
	・押出し300形	※300	※1.8以上		・特注色 ()																																																																																																																																																										
	・押出し350形	※350	※2.0以上		・																																																																																																																																																										
	・	・	※2.0以上		・																																																																																																																																																										
	・板材折曲げ形	・	※2.0以上																																																																																																																																																												
共通事項		工事名 07危防工第7号 SAGA プラザ防災倉庫新築工事	縮尺 —	佐賀県危機管理防災課	図 番 号 A-01-2																																																																																																																																																										
		図 面 名 特記仕様書 2 (建築新営) その 5	設計 令和 年 月			一級建築士 登録 第 号																																																																																																																																																									

15
続き

7
仕上塗材仕上げ

建物内部に使用する塗料の揮発性有機化合物放散量
※F☆☆☆☆

(15.6.2)

仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上りの形状及び工法
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si ・可とう形外装薄塗材Si ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S ・内装薄塗材C ・内装薄塗材L ・内装薄塗材Si ・内装薄塗材E ・内装薄塗材W	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・砂壁状 ・ゆず肌状 （・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 （・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状 （・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性・適用する ・適用しない 耐湿性・適用する ・適用しない
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C ・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E ・内装厚塗材C ・内装厚塗材L ・内装厚塗材G ・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 吸放湿性・適用する ・適用しない 上塗材・適用する ・適用しない
・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材Si ・複層塗材E ・複層塗材RE ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・凸部処理 ・凹凸模様 耐候性・耐候形3種 ・耐候形2種 ・耐候形1種 上塗材 溶媒※水系・溶剤系 樹脂※アクリル系・ 外観※つやあり ・つやなし ・マット
・軽量骨材仕上塗材	・吹付け軽量塗材 ・こて塗よう軽量塗材	・ ・	

8
ALC等 材の場合の
下地処理

(15.6.4)

9
マスキング塗料塗り

種類

・A種
・B種（仕上材塗り：EP-G・B種・A種）

(15.7.2)

10
せっこう
ブラスター塗り

下塗り

・既調合ブラスター（下塗り用）
・現場調合ブラスター（下塗り用）

(15.8.3)

上塗り

・既調合ブラスター（上塗り用）
・しゅくい塗り

11
ローラー吹付け

ローラー/材料の揮発性有機化合物放散量
※F☆☆☆☆

・

(15.12.2、3)

接着剤の揮発性有機化合物放散量
※F☆☆☆☆

・

吹付け厚さ(mm)

・図示
・25

色彩

・着色
※原色

12
しゅくい塗り

しゅくい

・既調合材料
色しゅくい
・現場調合材料

下地

・せっこうボード
・木ずり

・せっこうボード
・こまい土壁

・モルタル塗り
・こまい土壁

・下塗りをせっこうブラスターとし上塗りに使用する場合
・

既調合しゅくいの調合

・せっこうボード下地
・モルタル塗り下地
・せっこうボード下地

・標準仕様書表15.10.1
・標準仕様書表15.10.2
・製造所の仕様による

現場調合しゅくいの調合及び各層の塗厚

・木ずり下地
・せっこうブラスター下地、こまい下地

・標準仕様書表15.10.1
・標準仕様書表15.10.2
・

既調合しゅくいの上塗り仕上げ工法

・なで切り仕上げ
・パターン仕上げ

13
こまい壁塗り

のり

・土壁用ののり
・ふのり
・ぎんなんそう
・

(15.11.2～5、7、8)

・つのまた
・粉末海藻
・

・砂壁用ののり

・ふのり
・こんにゃくのり
・合成高分子系混和剤
・

・つのまた
・にわか
・

色土

・土物仕上に用いる土色の種類
・大津仕上に用いる土壁の種類

(
)
(
)

色砂の種類

・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色、製造したもの

下塗りの調合

・標準仕様書表15.11.2
・

塗厚

・標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁のある場合

(
)

こまい壁の工程

・A種
・B種

・こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上の工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法
・水ごね土物2工法
・のりさし土物工法
・ねりごね土物工法

・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法

・こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上の工法の種類
・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法

ちりじゃく

・図示
・

16
建具工事

1
防火戸

※建具表による
・

(16.1.3)

2
見本の製作等

建具見本の製作

・行う（建具符号：
・行わない

(16.1.4)

建具見本製作の目的等

・

特殊な建具の仮組

・行う（建具符号：
・行わない

3
防犯建物部品

・適用する（※建具表による
・適用しない

(16.1.6)

7
7ミリ鋼製建具

性能等級

(16.2.2～5)（表16.2.1～2）

外部に面する建具の種類（コンクリート系下地及び鉄骨下地）

・A種（建具符号：※建具表による
・B種（建具符号：※建具表による
・C種（建具符号：※建具表による

(
)
(
)
(
)

外部に面する建具の種類（木下地）

・D種（建具符号：※建具表による
・E種（建具符号：※建具表による

(
)
(
)

上記によらない場合

耐風圧性の等級（
気密性の等級（
水密性の等級（

(
)
(
)
(
)

（建具符号・建具表による
・適用しない

防音ド7、防音サッシ

・適用する
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

断熱ド7、断熱サッシ

・適用する
・適用しない

断熱性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

枠の見込み寸法

・建具表による
・

ステンレス鋼板

・SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1
・

ステンレス製のくつずりの仕上げ

・HL
・

表面処理

外部に面する建具

種別
・BB-1種
・BB-2種
着色
・標準色
・特注色

（標準仕様書表14.2.1）

屋内の建具

種別
・BC-1種
・BC-2種
着色
・標準色
・特注色

（標準仕様書表14.2.1）

結露水の処理方法

※図示
・水貯め式
・排水水

工法

水切り板、ぜん板
木下地の場合の内付け建具

※図示
・適用しない
・適用する

5
網戸等

(16.2.3)

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS316）製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法 15mm

性能等級

(16.2.2、5)（表16.3.1～3）

外部に面する建具の種類（コンクリート系下地及び鉄骨下地）

・A種（建具符号：※建具表による
・B種（建具符号：※建具表による
・C種（建具符号：※建具表による

(
)
(
)
(
)

外部に面する建具の種類（木下地）

・D種（建具符号：※建具表による
・E種（建具符号：※建具表による

(
)
(
)

上記によらない場合

耐風圧性の等級（
気密性の等級（
水密性の等級（

(
)
(
)
(
)

（建具符号・建具表による
・適用しない

6
樹脂製建具

7
鋼製建具

性能等級

(16.2.2)（表16.4.2～4）（表16.4.2）

外部に面する建具の耐風圧性

・S-4（建具符号・建具表による
・S-5（建具符号・建具表による
・S-6（建具符号・建具表による
・

(
)
(
)
(
)
(
)

防音ド7、防音サッシ

・適用する
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

断熱ド7、断熱サッシ

・適用する
・適用しない

断熱性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

枠の見込み寸法

・建具表による
・

ステンレス鋼板

・SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1
・

ステンレス製のくつずりの仕上げ

・HL
・

鋼板厚の厚さ

・標準仕様書表16.4.2
・

使用箇所

・

標準型鋼製建具の形式及び寸法

・建具表による
・

性能等級

簡易気密型ド7サッシ

・適用する
・適用しない

(
)
(
)
(
)
(
)

防音ド7、防音サッシ

・適用する
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

断熱ド7、断熱サッシ

・適用する
・適用しない

断熱性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

耐震ド7

・適用する
・適用しない

面内変形追随性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

7
鋼製建具

8
鋼製軽量建具

8
鋼製軽量建具

性能等級

簡易気密型ド7サッシ

・適用する
・適用しない

(
)
(
)
(
)
(
)

防音ド7、防音サッシ

・適用する
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

遮音性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

断熱ド7、断熱サッシ

・適用する
・適用しない

断熱性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

耐震ド7

・適用する
・適用しない

面内変形追随性の等級（
（建具符号・建具表による
・適用しない

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

共通事項

工事名

07危防工第7号 SAGA プラザ防災倉庫新築工事

図面名

特記仕様書 3（建築新営）その6

縮尺

—

設計

令和 年 月

佐賀県危機管理防災課

一級建築士 登録 第 号

図番号

A-01-3

共通事項	16 続き	8 続き	鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ・ SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ・ HL	11 建具用金物	(16. 8. 2～4) (表16. 8. 1)	13 自閉式上吊り引戸装置	性能 ※標準仕様書 表16. 10. 1 による (16. 10. 3) (表16. 10. 1)	17 ガラス	(9. 7) (16. 14. 2～4) (表16. 14. 1)		
		9 ステンレス製建具	性能等級 (16. 2. 2) (16. 4. 2) (16. 6. 2～5) 簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号 ・ 建具表による) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 (建具符号 ・ 建具表による) ・ S-5 (建具符号 ・ 建具表による) ・ S-6 (建具符号 ・ 建具表による) ・ 防音ドア、防音サッシ ・適用する 遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) ・適用しない 断熱ドア、断熱サッシ 6 ・適用する 遮熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) ・適用しない 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による ステンレス鋼板 ・ SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつずりの仕上げ ・ HL 表面仕上げ ・ HL程度 ・ 鏡面仕上げ ・ ステンレス鋼板の曲げ加工 ・普通曲げ ・ 角出し曲げ (・ a角 ・ b角 ・ c角) 10 木製建具	12 自動ドア開閉装置	・マスキング ※製作する (※新規 ・ 既存にあわせる) 鍵の製作本数 ※各室3本1組 (室名札付き) ・ ※シリンダー錠 ※レバーハンドル 材質 ※アルミニウム合金 ・ ステンレス ・ 黄銅 座金 ※丸座 ・ 長座 ・ 握り玉 材質 ※ステンレス ・本締り錠 (品質、性能、試験方法) 建築材料等品質性能表による ・空錠 ※レバーハンドル 材質 ※アルミニウム合金 ・ ステンレス ・ 黄銅 座金 ※丸座 ・ 長座 ・ 握り玉 材質 ※ステンレス ・グレン錠 レバーハンドルの材質 ※亜鉛合金 ・ ステンレス 製造所 ※図示 ・ビギン錠 かみ部分の材質 ・ 亜鉛合金 ※ステンレス ・フロアピン かみ部分の材質 ※Grade2 ※ステンレス ・ピンロックザー (丁番型) 材質 ・ 鋼 (焼付け塗装) ・ピンロックザー (レバー型) 材質 ・ 鋼 (焼付け塗装) ・ドアロックザー Grade1 ※Grade2 材質 ※アルミニウム合金 ・押棒、押板 材質 ・ ステンレス ・ 黄銅 ・ 合成樹脂 ・アームストップ 材質 ・ 鋼 (クロムめっき) ※ステンレス ・戸当り 材質 ※亜鉛合金程度 ・ ステンレス ・ 黄銅 あおり止め (フック) 付き ・ 適用する ・ 適用しない ・クレセント 材質 ※建具製造所の仕様による ・排煙ペーラー (※埋込 ・ 露出) ・樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16. 8. 3 ・ ・引き戸用駆動装置 性能値 (16. 9. 2、3) ※標準仕様書表16. 9. 11による (防錆 ・ 適用しない ・ 適用する) ・以下による 種類、開閉方式 () 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 () ・車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置 性能値 ※標準仕様書表16. 9. 21による (防錆 ・ 適用しない ・ 適用する) ・以下による 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 () ・引き戸用検出装置 性能値 ※標準仕様書表16. 9. 31による (防錆 ・ 適用しない ・ 適用する) ・以下による 放射無線周波数電磁界耐性 () 耐電圧 () 防錆 () 防滴 () 電源 () 引き戸用検出装置の種類 ・ 建具表による ・ (表16. 9. 4) タッチスイッチの種類 ・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便房スイッチの種類 ・ 大形押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ 凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない	14 重量シャッター	(16. 11. 2～4) シャッターの種類 耐風圧強度 備考 ・管理用シャッター () Pa ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・外壁用防火シャッター () Pa ※危害防止機構 ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) 電動シャッターにおける急降下制動装置、急降下停止装置の設置箇所 ※図示による 電動式にシャッターにおける障害物感知装置の設置箇所 ※図示による 屋内用防火シャッターもしくは防煙シャッターにおける危害防止機構 標準仕様書16. 11. 2(4) (a)かつ(b)による (設置箇所 ・ 建具表による) リモコンの有無 ・ 無 ・ 有 (・ 建具表による ・ リモコン個数 () 個) 電動式の場合の電源 ※三相200V 0. 75kw以下 (過電流保護装置付) 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12 ・ ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のかみ、雨掛りに用いる スイッチボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板 ・ SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ 開閉方式 (16. 12. 2～4) ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) シャッターケース ・ 設ける ・ 設けない 安全装置 電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による) 耐風圧強度 () Pa スラットの材質 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 (※Z06又はF06 ・) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 (※AZ90 ・) スラットの形状 ・ インターロック形 ・ オーバーラッピング形 ガイドレール ・ 座板の材質 ・ ステンレス (SUS304) ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 電動式の場合の危害防止機構 ※有 (障害物感知装置自動閉鎖型) 電動式の場合の電源 ※単相100V (過電流保護装置付) ・ (16. 13. 2、3) シャッター材料 耐風圧 開閉方式 収納形式 ガイドレールの材質 による区分 区分 による区分 による区分 ※スチールタイプ ・ 125 ※バラス式 ・ スタンダード形 ・ 溶融亜鉛 ・ アルミニウムタイプ ・ 100 ・ チェーン式 ・ ローヘッド形 めっき鋼板 ・ ファイバーグラスタイプ ・ 75 ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ※ステンレス鋼板 ・ パーチカル形 ・ 50 オーバーヘッドドアの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)	18 ガラス用フィルム	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製 ※シーリング材 (SR-1) ※建具の製造所の仕様による ・ ガラスカット ・ ガラス図示 ・ グレージングチャンネル形 ・ 鋼製及び鋼製軽量 ※シーリング材 (SR-1) ※建具の製造所の仕様による ・ 図示 ステンレス製 ※シーリング材 (SR-1) ※建具の製造所の仕様による ・ 図示 樹脂製 ※シーリング材 (SR-1) ※建具の製造所の仕様による ・ ガラスカット ・ グレージングチャンネル形 ・ 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による 種類 記号 その他性能等 内貼り用 外貼り用 ・ 日射調整フィルム 6 ・ SC-1 ・ SC-2 ・ 低放射フィルム ・ LE - ・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム ・ GI-1 ・ GI-2 ・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム ・ GD-1 ・ GD-2 ・ ガラス貫通防止フィルム ・ DF 品質はJIS A 5759Iによる 形状、寸法、材質 ※図示 (20. 2. 11)		
		10 木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 ・ A種 (16. 7. 2～4) (表16. 7. 1) 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ・フラッシュ 表面材のホルムアルデヒド放散量 ・ 改修標準仕様書5. 7. 2(2) (i) (a)による ・ 表面材の合板の種類 合板の種類 規格 備考 ※普通合板 6 表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※ラフ程度 ・) 不透明塗料塗り (※しな程度 ・) 板面の品質 (・) 接着の程度 (・ 1級 ・ 2級) ・天然木 樹名 () 化粧合板 6 接着の程度 (・ 1級 ・ 2級) ・特殊加工 化粧加工の方法 化粧合板 6 (・ オーバーレイ ・ フラット ・ 塗装) 接着の程度 (・ 1級 ・ 2級) ・MDF 6 表面板の厚さ ※標準仕様書表16. 7. 6による ・ 引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ・ 適用しない ・ 適用する ・かまち戸 かまち樹種 () 鏡板樹種 () 見込み寸法 ※36mm ・ 建具表による ・ ・ふすま 張りの種別 (・ I型 ・ II型) 上張り (押入等の裏側以外) ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度 ・ 押入等の裏側は雲花紙程度 ・ 塗り縁 生地縁 (素地) ・ 生地縁 (ウレタン剤塗装) 見込み寸法 ※19. 5mm ・ 建具表による ・ ・戸ぶすま (表面材の仕上げ ・ 建具表による) (見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による) ・紙張り障子 (見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による) 枠、くつずりの材料 ・ 建具表による		15 軽量シャッター	16 オーバーヘッドドア	19 衝突防止表示				
工事名		07危防工事第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事					縮尺	佐賀県危機管理防災課		図番号 A-01-4	
図面名		特記仕様書 4 (建築新営) その7					設計	令和 年 月			
							令和 年 月	一級建築士 登録 第 号			

5 鉄筋工事	①鉄筋の種類	鉄筋の種類(5.2.1)(表5.2.1) 種類の記号呼び名(mm)備考 ・SD295D10・D13 ・SD345 ・	6機械式継手	使用箇所(5.5.2) ・図示による() 性能(H12建告第1463号に適合するもの)(5.5.2) ・A級	⑧各部配筋(5.3.7) 各部配筋(※図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・()図示) 外観試験(5.4.10) ※行う(全数) 抜取試験 ※超音波探傷試験 引張試験 試験ロット:1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。 なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする	6 コンクリート工事	①コンクリートの種類及び強度 普通コンクリートの設計基準強度(6.2.2) 設計基準強度(N/mm2)適用箇所 ・21基礎・土間・外構 ・24 ・27 ・ 構造体強度補正值(\$)\$※標準仕様書表6.3.21による 軽量コンクリートの設計基準強度(6.2.2) 設計基準強度(N/mm2)適用箇所 ・24 ・ スラブの位置(cm)(6.2.4)(表6.2.2) 打込み箇所基礎、基礎梁、土間スラブ柱、梁、スラブ、壁 所要スラブ15、1818 類別(6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類Ⅱ類 レディーミストコンクリート製造工場の選定(6.4.1) ※全国生コンクリート品質管理監査会議に適マークを承認された工場 ・図示 3セメント(6.3.1)(表6.3.1) ・普通ポルトランドセメント又は高炉セメントA種、シリセメントA種又はフライアッシュセメントA種 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。 施工箇所() ・高炉セメントB種G 施工箇所() ・フライアッシュセメントB種G 施工箇所() ・ 4骨材(6.3.1) 7シリカ反応性による区分 ※A・B 5混和材料(6.3.1) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・ ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による ・ 6気乾単位容積質量(6.2.3)(6.10.2) 普通コンクリート ・2.3t/m3程度 軽量コンクリート ・1種(1.8~2.1t/m3) ・2種(1.4~1.8t/m3) 7軽量コンクリート(6.10.1、2)(表6.10.1) 種類 ・1種 ・2種 適用箇所 ・図示による() ・ スラブ※21cm 8マスコンクリート(6.13.1~2) セメントの種類 ・高炉セメントB種G ・普通ポルトランドセメント ・中庸熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種G ・シリセメント 適用箇所 ・図示による() ・ 混和材料(6.13.2) ・混和剤 混和剤の種類 ・標準仕様書6.13.2(2)(7)による ・ ・混和材 混和材の種類 ・標準仕様書6.13.2(2)(4)による ・ スラブ※15cm ・() 構造体強度補正值(\$)\$※標準仕様書表6.13.11による
	2溶接金網	形状等(5.2.2) 種類種類の記号網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)使用部位 ・溶接金網 ・鉄筋格子	7溶接継手	使用箇所(5.6.3) ・図示による() 性能(H12建告第1463号に適合するもの)(5.6.3) ・A級	9圧接完了後の試験(5.4.10)		15基礎梁主筋の継手(5.6.3) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)(b)) (・全て・) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)(c)) (・全て・) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)(d)) (・全て・) ・図示による()
	③鉄筋の継手	加工(5.3.2) 90°未満の折曲げ内法直径 継手方法等(5.3.4)(5.5.2~3) 部位継手方法呼び名(mm) 柱、梁の主筋※ガス圧接・機械式継手・溶接継手 耐力壁の鉄筋※重ね継手 その他の鉄筋※重ね継手 () 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ(5.3.4) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 継手位置図 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 柱及び張り主筋の継手の長さ ・図示による() 鉄筋の定着方法(5.3.4)(表5.3.4~5) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 鉄筋の定着長さ ・図示による() 機械式定着工法 ・適用する 適用箇所 ・図示による() 種類 ・摩擦圧接接合 ・蝶合ゲラット固定 ・嵌合ゲラット固定 工法 ・第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ・評定等の評価内容による 品質確認 ・評定等の評価内容による 検査 ・評定等の評価内容による		使用箇所(5.6.3) ・図示による() 性能(H12建告第1463号に適合するもの)(5.6.3) ・A級 溶接継手の工法() 鉄筋相互のあき(5.6.3) ・標準仕様書5.3.5(4)による ・評定等の評価内容による ・図示による(構造関係共通図(配筋詳細図)) ・ 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 ・全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波探傷試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験の箇所数1ロットに対して()箇所 ・全数 試験項目 ・挿入長さ 試験方法 ・JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)による 不良となった継手の修正方法等(5.5.2) ・図示による() 使用箇所(5.6.3) ・図示による() 性能(H12建告第1463号に適合するもの)(5.6.3) ・A級 溶接継手の工法() 鉄筋相互のあき(5.6.3) ・標準仕様書5.3.5(4)による ・評定等の評価内容による ・図示による(構造関係共通図(配筋詳細図)) ・ 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 ・全数 試験項目 ・内部欠陥の検出 試験方法 ・JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)による 品質の確認方法(5.6.3) ・図示による() 不良となった継手の修正方法等(5.6.3) ・図示による()	⑩帯筋(5.3.7) 組立の形の種別 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・H形 ・()形 ・図示による() 補強方法 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 配筋方法 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 出隅部分及び出隅受け部の補強筋 ・図示による() ・ 一般壁 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) (・A形・B形) ・図示による() 耐震壁 ・図示による() 補強形式 ・図示による() ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) 配筋種別 ・図示による() ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) (・H形・) 梁貫通孔径(部材記号含む)及び配筋種別リスト ・図示による() 16機械吊上げ用フック		
④鉄筋の定着の方法及び長さ	鉄筋の定着方法(5.3.4)(表5.3.4~5) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 鉄筋の定着長さ ・図示による() 機械式定着工法 ・適用する 適用箇所 ・図示による() 種類 ・摩擦圧接接合 ・蝶合ゲラット固定 ・嵌合ゲラット固定 工法 ・第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ・評定等の評価内容による 品質確認 ・評定等の評価内容による 検査 ・評定等の評価内容による	最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)(5.3.5)(表5.3.6) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ・有り適用箇所() 最小かぶり厚さ ・鉄筋径の1.5倍以上 ・ ・無し 軽量コンクリートを適用する場合 ・無し ・有り適用箇所() ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図))に加える 厚さ()mm ・ 耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等) ・無し ・有り適用箇所() ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図))に加える 厚さ()mm ・ 鉄筋相互のあき(特殊な鉄筋を除く)(5.3.5)(図5.3.6) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による()	8各部配筋(5.3.7) 各部配筋(※図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・()図示) 外観試験(5.4.10) ※行う(全数) 抜取試験 ※超音波探傷試験 引張試験 試験ロット:1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。 なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする	11最上階柱頭補強(5.3.7) 補強方法 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 12片持ちスラブの出隅部の補強配筋(5.3.7) (出隅受け部分の補強筋を含む) 配筋方法 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) ・図示による() 出隅部分及び出隅受け部の補強筋 ・図示による() ・ 一般壁 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) (・A形・B形) ・図示による() 耐震壁 ・図示による() 補強形式 ・図示による() ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) 配筋種別 ・図示による() ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)) (・H形・) 梁貫通孔径(部材記号含む)及び配筋種別リスト ・図示による() 15基礎梁主筋の継手(5.6.3) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)(b)) (・全て・) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)(c)) (・全て・) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)(d)) (・全て・) ・図示による()	2レディーミストコンクリートの種類(6.2.1)(表6.2.1) レディーミストコンクリート製造工場の選定(6.4.1) ※全国生コンクリート品質管理監査会議に適マークを承認された工場 ・図示 3セメント(6.3.1)(表6.3.1) ・普通ポルトランドセメント又は高炉セメントA種、シリセメントA種又はフライアッシュセメントA種 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。 施工箇所() ・高炉セメントB種G 施工箇所() ・フライアッシュセメントB種G 施工箇所() ・ 4骨材(6.3.1) 7シリカ反応性による区分 ※A・B 5混和材料(6.3.1) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・ ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による ・ 6気乾単位容積質量(6.2.3)(6.10.2) 普通コンクリート ・2.3t/m3程度 軽量コンクリート ・1種(1.8~2.1t/m3) ・2種(1.4~1.8t/m3) 7軽量コンクリート(6.10.1、2)(表6.10.1) 種類 ・1種 ・2種 適用箇所 ・図示による() ・ スラブ※21cm 8マスコンクリート(6.13.1~2) セメントの種類 ・高炉セメントB種G ・普通ポルトランドセメント ・中庸熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種G ・シリセメント 適用箇所 ・図示による() ・ 混和材料(6.13.2) ・混和剤 混和剤の種類 ・標準仕様書6.13.2(2)(7)による ・ ・混和材 混和材の種類 ・標準仕様書6.13.2(2)(4)による ・ スラブ※15cm ・() 構造体強度補正值(\$)\$※標準仕様書表6.13.11による		

共通事項		工事名07危防工第7号 SAGA プラザ防災倉庫新築工事	縮尺—	佐賀県危機管理防災課	図番号A-01-7
		図面名特記仕様書7(建築構造)その2	設計令和 年 月		
			一級建築士 登録 第 号		

6 続 き	9	無筋コンクリート	コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・ 適用箇所 ・標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所 ・図示による（ ） 設計基準強度 ※18N/mm2 ・ スラブ ※15cm又は18cm ・	7	① 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める()グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監督職員の承諾する工場(標仕7.1.1以外の適用範囲に限る。)	6	溶融亜鉛めっき高力ボルト	ボルトの種類 ・1種(F8T相当) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ・図示による（ ） 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による ・ ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ケンジ等 ・図示による(構造関係共通事項 構造関係共通図(鉄骨標準図) 1-1縁端距離及びボルト間隔による) ・ 摩擦面の処理 ・フラット処理(表面粗度50μmR以上)又はリン酸塩処理 リン酸塩処理とした場合はすべり係数値の確認を行う ・すべり係数試験 試験方法 ・「高力ボルト接合設計施工ガイドブック(日本建築学会)」 適用 ⑥ 構造用アンカボルト ・ABR400 ボルトの種類(JIS B 1220) ・ABR490 ボルトの種類(JIS B 1220) ・SNR400B アンカボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上の程度 ・標準仕様書 表7.2.3による ・ 形状、寸法 ・図示による（ ） ⑥ 建方用アンカボルト 材質 ・SS400 ・ アンカボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上の程度 仕上の程度 ・標準仕様書 表7.2.3による ・ 形状、寸法 ・図示による（ ） ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ケンジ等 ・図示による（ ） 溶接材料 ※標準仕様書7.2.5(1)(2)による。 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・図示による（ ） 種類 建築用タンパックス鋼 ・割枠式 ・ 建築用タンパックスボルト ・羽子板ボルト ねじの呼び ・図示による（ ） ・ 材質、形状及び寸法 (6.8.2)(7.2.7)	11	スラット	材質、形状及び寸法 (7.2.8) ※頭付きスラット JIS B 1198 ・ 呼び名等 呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22	12	柱底均しモルタル	モルタルの種類 (7.2.9) ・標準仕様書7.2.9(1)による ※無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料、調合等 材料、調合等 ※標準仕様書7.2.9(2)による ・ 品質及び試験方法 ※標準仕様書 表7.2.5による ・	13	工作図	監督職員による現寸検査 (7.3.2) ・行わない ・行う	14	鉄骨の製作精度	※標準仕様書7.3.3による (7.3.3) 溶接すれ及び食い違い ・溶接部はH122告示1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること ・溶接すれ及び食い違いはH122告示1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り。 図示() 補強方法 ・「突き合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・マニュアル(建築研究所監修)」による。 ・	15	鉄骨の仮組	・行わない ・行う 仮組を行う範囲 ・図示による() ・	16	溶接技能者の技量付加試験	試験の要領及び付加試験を要する溶接箇所 (7.6.3) ・図示による（ ） ・	17	溶接接合	開先の形状 (7.6.4) ・図示による（ ） ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2) ・ スラブの形状 (7.6.7) ・図示による（ ） ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4) ・ エンドブの切除する部分 ・全て ・見え掛り部となる部分 ・切除する部分なし ・ 切断する範囲 ・鋼製エンドブ、裏あて金等は、梁フランジの端から直線状に切断する。その際の残し寸法は5mm以下とする。 なお、切断面が交差する場合は交差部を7-ル状に加工する。 ・ 切断面の仕上げ ・標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)②による ・ 溶接部の余盛り高さ (7.6.7) ・JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3[溶接]による ・ 低応力高耐力疲労を受ける部位 ・図示による ・
	共通事項			工事名		07危防工第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事				縮尺		—		佐賀県危機管理防災課		図 番 号 A-01-8														
				図面名		特記仕様書 8 (建築構造) その 3				設計		令和 年 月		一級建築士 登録 第 号																

§1 一般事項

1. 本配筋標準図(2023年版)は、(一社)日本建設業連合会と(一社)日本建築構造技術者協会が協働で作成した鉄筋コンクリート造の配筋標準図である。
2. 本配筋標準図は、
- ・「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
 - ・「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2018版)」(日本建築学会)
 - ・「建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事(2022年版)」(日本建築学会)
 - ・「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021版)第2刷」(日本建築学会)
- を参考に作成している。
3. 本配筋標準図は表1-1に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。高強度せん断補強筋を使用する場合は、構造図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図等の図面を示す)による。
4. 構造図に記載された事項は、本配筋標準図に優先して適用するものとする。
5. 本配筋標準図において、「監理者に確認」、「監理者に承認」と記載された内容は、監理者が設計者と協議し、設計者が承認した結果を示す。
6. 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。(～程度、～以下、@、Pと表記しているものを除く)
7. 本配筋標準図に☒印を記した項目は、適用しない。
8. 杭に関する事項は、構造図による。

表1-1 適用範囲

1. コンクリート	普通 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 60N/mm^2 以下 軽量 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 36N/mm^2 以下 SD390の鉄筋を使用する場合は $F_c=21\text{N/mm}^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する場合は $F_c=24\text{N/mm}^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートを用いない。		
	規格番号	規格名称	種類の記号
2. 鉄筋	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295 SD345、SD390 SD490
	異形鉄筋はD41以下とする。		
	溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。		

§2 鉄筋加工共通事項

2-1 折曲げ形状・寸法

1. 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
2. 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
3. SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状・寸法

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
90° フック	90°	SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

▽は折曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

(注)

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d
2. 90°未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の90°フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

1. 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中◎印)
- (1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね継手とする場合(フックの形状は180°フックとする)

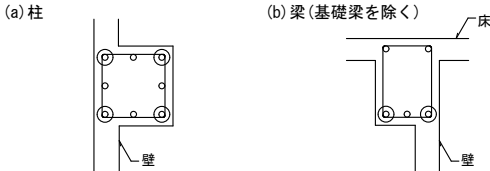


図2-2-1 フックが必要な重ね継手

- (2) 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱のない場合を含む)の柱頭部(フックの形状は180°フックとする)

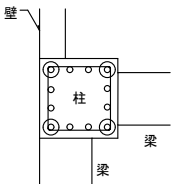


図2-2-2 最上階(上に柱がない場合を含む)の柱頭でフックが必要な主筋

- (3) あばら筋、帯筋(フック形状は2-3による)および幅止め筋(フック形状は図2-2-3による)

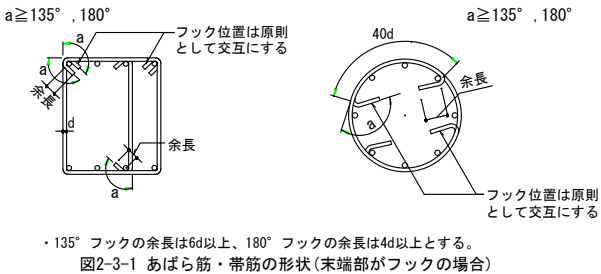


図2-2-3 幅止め筋の形状

- (4) 煙突の鉄筋(フックの形状は180°フックとする)
- (5) 杭基礎のベース筋
単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

1. あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状、寸法は、図3-3-4による。



- ・135°フックの余長は6d以上、180°フックの余長は4d以上とする。
- 図2-3-1 あばら筋・帯筋の形状(末端部がフックの場合)

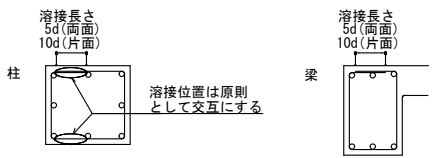
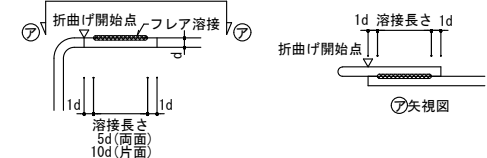


図2-3-2 あばら筋・帯筋の形状(末端部が溶接の場合)



- ・フレア溶接を採用する場合は監理者と協議すること。
- ・ビード形状は表3-1-3による。
- ・フレア溶接は、折曲げ開始点、鉄筋材端から1d以上離すこと。

図2-3-3 あばら筋・帯筋の溶接要領

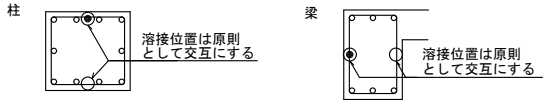
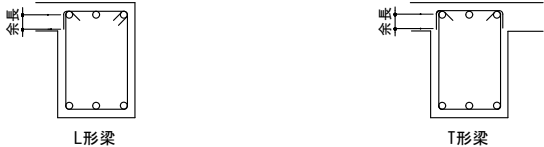
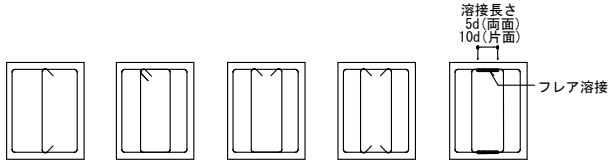


図2-3-4 あばら筋・帯筋の形状(溶接閉鎖形の場合)



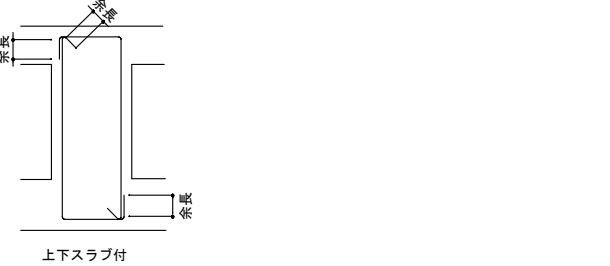
- ・スラブと同時に打ち込むT形、L形梁のキャブタイ末端部は本図によってもよい。
- ・スラブが取り付く側のキャブタイ末端部は、90°フックとしてよい。
- ・スラブ付梁のキャブタイに90°フックを使用する場合、フックの余長は8d以上とする。

図2-3-5 スラブ付梁のあばら筋(末端部がフックの場合)



- ・鉄筋末端部フックは、図2-3-1による。

図2-3-6 副あばら筋・副帯筋の形状



- 上下スラブ付
- フックをつける(フック角度は180°、135°、90°のいずれとしてもよい)
- フックをつける(フック角度は180°、135°、90°のいずれとしてもよい)
- ※L1h(フック付重ね継手)は、表3-1-2による。

- ・原則、梁の上下にスラブが取り付く場合、かつ、梁せい1.5m以上の場合、使用可能とする。
- 原則を守れない場合は、監理者と協議すること。

図2-3-7 梁せいの大きな基礎など、あばら筋を分割する場合のあばら筋・副あばら筋の形状

2-4 主筋のあき・2段筋の間隔

1. 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
2. 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
3. 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認
4. 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4による。
5. 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名(d)	最外径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	15	32	47
D16	19	32	51
D19	22	32	54
D22	26	33	59
D25	29	38	67
D29	33	44	77
D32	37	48	85
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	47	62	109

- (注) 1. 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。

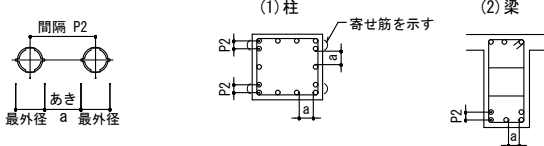
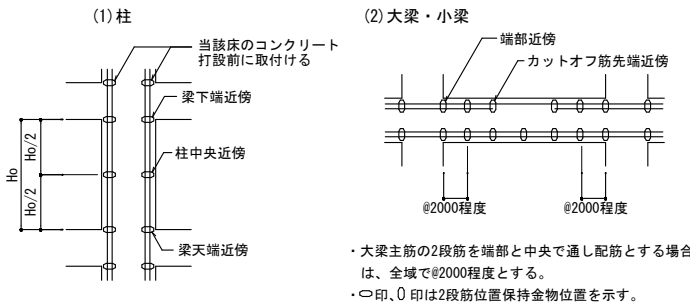


図2-4 柱梁主筋のあきと間隔

2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1にならい取り付けること。



- ・大梁主筋の2段筋を端部と中央で通し配筋とする場合は、全域で@2000程度とする。
- ・◎印、○印は2段筋位置保持金物位置を示す。

図2-5-1 2段筋位置保持金物の配置例

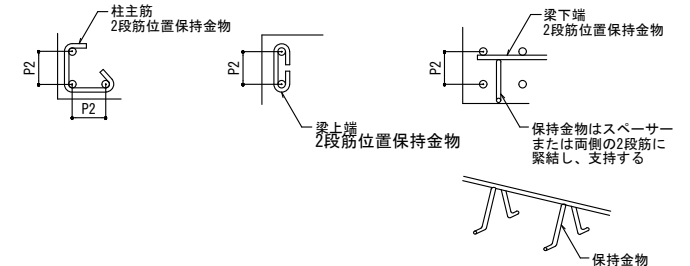


図2-5-2 2段筋位置保持金物の形状例

§3 継手および定着

3-1 継手

1. 対象とする継手は重ね継手、ガス圧接継手、フレア溶接継手とし、その他(機械式継手、突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。

2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。

3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。
(表3-1-1の記載例：■採用、□不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示		
指示欄	構造計算方法	直線重ね継手長さ
□		表3-1-2による。
□	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。 上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

4. D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
5. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。
6. あき重ね継手は、原則としてスラブ筋、基礎スラブ筋、壁筋に適用する。
その場合、あき重ね継手の継手長さは表3-1-2のL1を確保し、あき重ね継手とする鉄筋の
7. 関係図の重ね継手は、原則として、3)上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

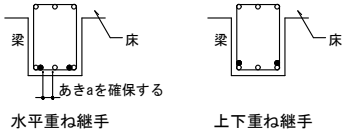


図3-1-1 梁主筋の重ね継手

8. ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。
9. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
10. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
11. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。
12. 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。
13. 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h		Fc (N/mm ²)						
重ね継手長さ L1: フックなし L1h: フック付	鉄筋の種類	18	21	24	30	39	48	
直線重ね継手の長さ L1								
	SD295	45d	40d	35d	35d	30d	30d	
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d	
	SD390		50d	45d	40d	40d	35d	
	SD490			55d	50d	45d	40d	
フック付重ね継手の長さ L1h 180° フックの場合 ※								
	SD295	35d	30d	25d	25d	20d	20d	
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d	
	SD390		35d	35d	30d	30d	25d	
	SD490 <90° フックのみ>			40d	35d	35d	30d	

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。

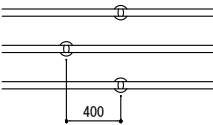
表3-1-3 ガス圧接・フレア溶接の形状

ガス圧接 ()内は、SD490の場合に適用する	ふくらみの直径・長さ	片ふくらみ	鉄筋中心の偏心量	圧接面形状
	圧接面	圧接面		
	1. 1d以上 (1. 2d以上)	Δh=h1-h2≤d/5以下		
	圧接面のずれ	鉄筋中心の偏心量		
	d/4以下	d/4以下		
	折れ曲がり	θ ≤ 2°		
フレア溶接 原則として鉄筋は、D16以下とする	片面の場合	両面の場合	溶接のビード幅	
			鉄筋径d	最小値
			10	6
			13	7
			16	8
	曲げ加工した鉄筋に使用する場合、折曲げ開始点からフレア溶接末端を1d以上離すこと			

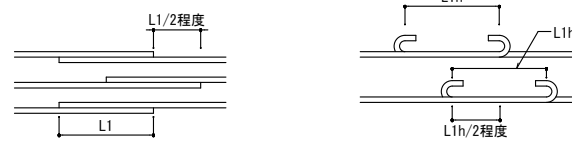
表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15 YGW16 YGW18 YGW19
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	

圧接の場合



主筋のあきが確保できる場合の重ね継手の場合



主筋のあきの確保が困難な場合の重ね継手の場合

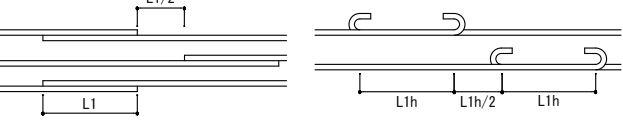
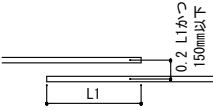


図3-1-2 隣り合う継手位置



あき重ね継手を使用する場合は、監理者に確認の上使用する。

図3-1-3 スラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋のあき重ね継手

3-2 定着

1. 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。
ただし、小梁、スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
2. 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
3. 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。
4. 柱梁仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
5. 大梁内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2: 直線定着 L2h: フック付定着	Fc (N/mm ²)						
鉄筋の種類	18	21	24	30	39	48	
直線定着長さ L2							
	SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390		40d	40d	35d	35d	30d
	SD490			45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合※							
	SD295	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390		30d	30d	25d	25d	20d
	SD490 <90° フックのみ>			35d	30d	30d	25d

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

下端筋定着長さ L3: 直線定着 L3h: フック付定着		Fc (N/mm ²)		18~60	
鉄筋の種類		部位		小梁	スラブ
直線定着長さ L3					
		SD295 SD345 SD390	20d <25d>	10dかつ 150mm <25d>	
フック付定着長さ L3h					
		SD295 SD345 SD390	10d	—	

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「—」は適用範囲外を示す。
3. < > は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

折曲げ定着長さ	Fc (N/mm ²)						
鉄筋の種類	18	21	24	30	39	48	
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La							
	SD295	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	20d	15d	15d
	SD490			25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ Lb							
	SD295	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	15d	15d	15d
	SD490						

(注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

3-3 その他の継手および定着

1. 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。
溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
2. 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
3. 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着、継手要領は、図3-3-4による。
4. 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

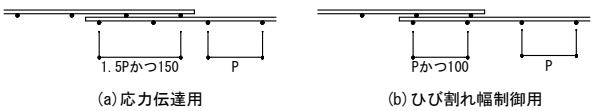


図3-3-1 溶接金網の重ね継手

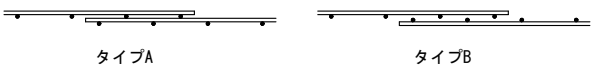


図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

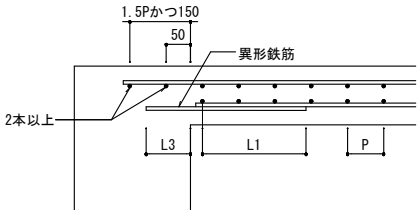
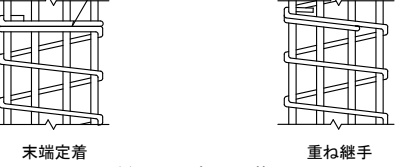
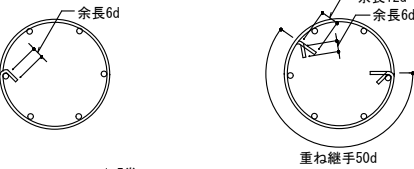


図3-3-3 溶接金網の定着

135° 折曲げ
余長6d

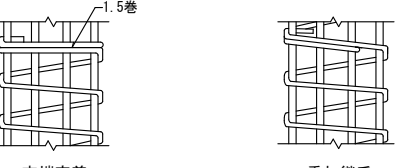
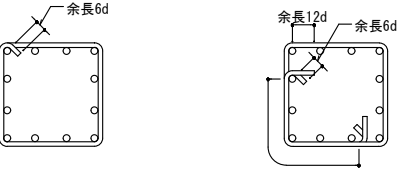
90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d



(a) 円形スパイラル筋

135° 折曲げ
余長6d

90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d



(b) 角形スパイラル筋

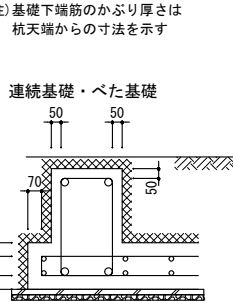
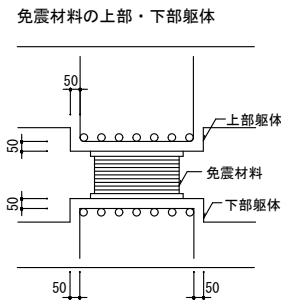
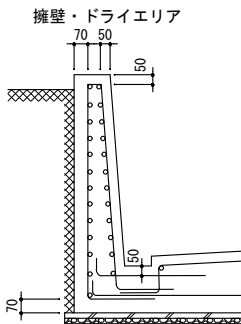
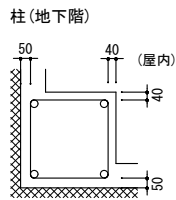
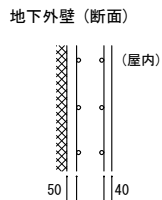
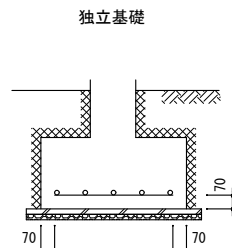
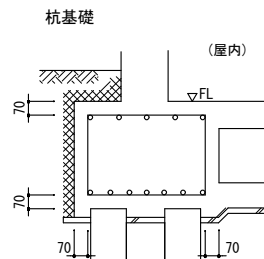
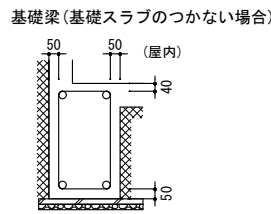
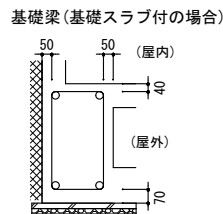
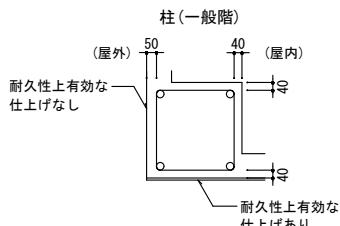
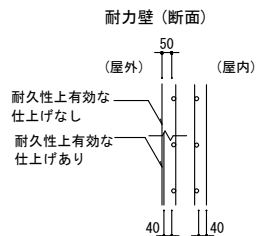
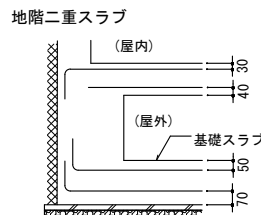
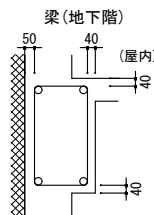
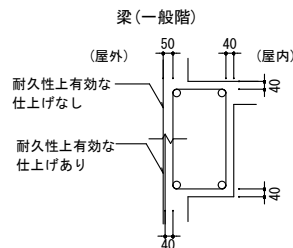
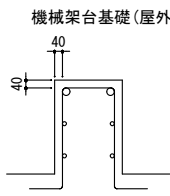
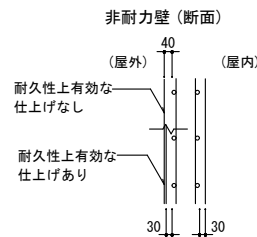
図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

- 鉄筋のかぶり厚さは表4-1による。
- 柱、梁のかぶり厚さは表4-1を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表4-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
- 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置に行う。
- 耐久性上有効な仕上がりがある場合、表4-1の※1の値を10mm減じてよい。
耐久性上有効な仕上りの例
 - ・タイル張り
 - ・モルタル塗り(10mm以上)
 - ・打増し(10mm以上)
- ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地等がある場合は、目地からのかぶり厚さを確保する。
- 柱、梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記4.により、耐久性上有効な仕上げと考えることができる。
- 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。

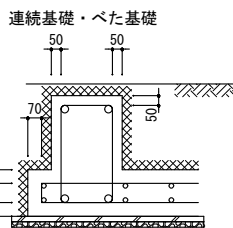
部 位		設計 ※2 かぶり厚さ	最小 ※3 かぶり厚さ	分類記号	
土に接しない部分	スラブ	屋内	30	20	a
		屋外	40 ※1	30 ※1	b
	柱・梁 耐力壁	屋内	40	30	c
		屋外	50 ※1	40 ※1	d
	非耐力壁	屋内	30	20	e
		屋外	40 ※1	30 ※1	f
	煙突内面		60	50	g
	擁壁・基礎スラブ		50	40	h
土に接する部分	柱・梁・壁・スラブ 連続基礎の立上り部分	50	40	i	
	基礎スラブ・擁壁		70	60	j
	基礎		70	60	k



※2 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。

※3 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。

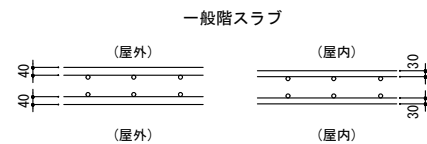
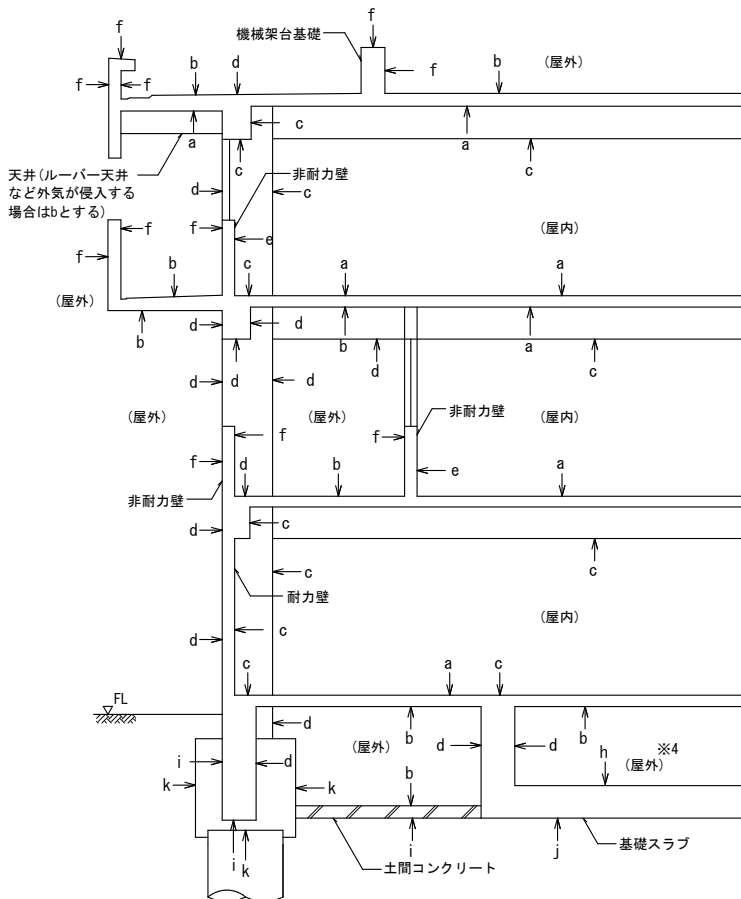


注)基礎下端筋のかぶり厚さは杭天端からの寸法を示す



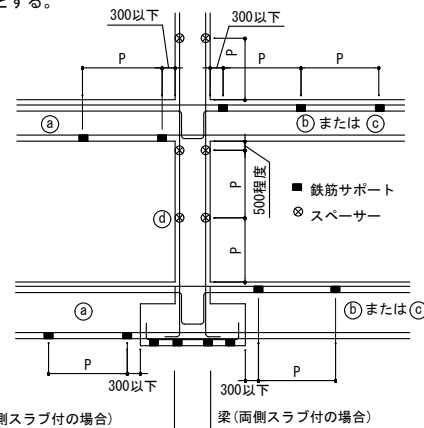
・図中の  及び  は、土が接する部分を示す。

※4：ピット内を屋内とする場合は監理者と協議のこと。



1. 鉄筋サポート、スプーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
2. 鉄筋サポート、スプーサーの種類は設計基準強度以下のコンクリート製、モルタル製または鋼製を使用する。柱、梁、基礎、基礎梁、壁、地下外壁の側面のスプーサーはプラスチック製でもよい。
3. 鉄筋サポート、スプーサーの数量、配置は図4-2-1、図4-2-2、図4-2-3、図4-2-4による。
4. スプーサー（ドーナツ形）は縦使いを原則とする。梁の側面の場合、スプーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かめよう緊結させる。
5. 断熱材打込み時の鉄筋サポートは断熱材用の製品（プレート付き）を使用するか、または鉄筋サポート下に樹脂パッキンを設置し、断熱材にめりこまないようにする。
6. 鋼製鉄筋サポートは在来型枠との接触面に防錆処理を施した製品を使用する。
7. 結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

Pは1500程度とする。




①

Spacer (原則として腹筋に取り付ける)

(b) 鉄筋サポート, かんざし筋 (梁主筋と同径程度), スペーサー (原則として腹筋に取り付ける)

(c) スペーサー (原則として腹筋に取り付ける)

④



スプーサー

$D \leq 1000$ 1辺に2個

$D > 1000$ 1辺に3個(ただし、Dが500毎に1個追加する)

図4-2-1 柱・梁の鉄筋サポート・スペーサーの取付け要領

壁
Pは縦、横共1500程度とする。
壁前後のスペーサー位置は、縦方向、横方向のいずれかの間隔を200程度とすればよい。

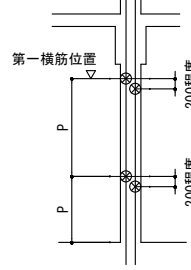
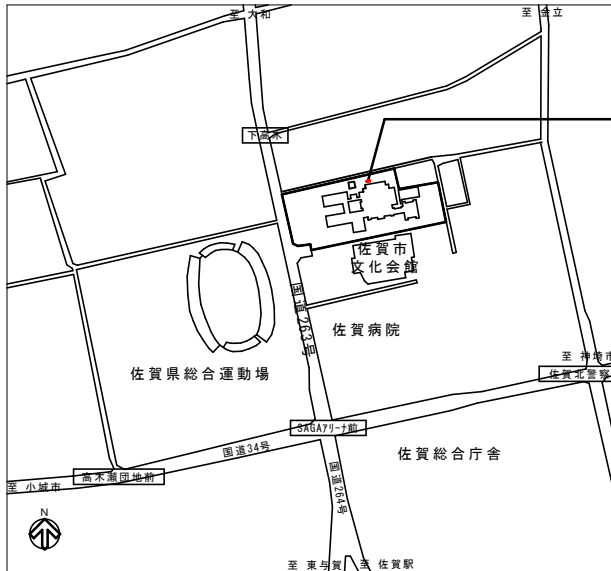


図4-2-2 壁のスペーサーの取付け要領



工事場所：佐賀市日の出1-21-15
S A G A プラザ防災倉庫

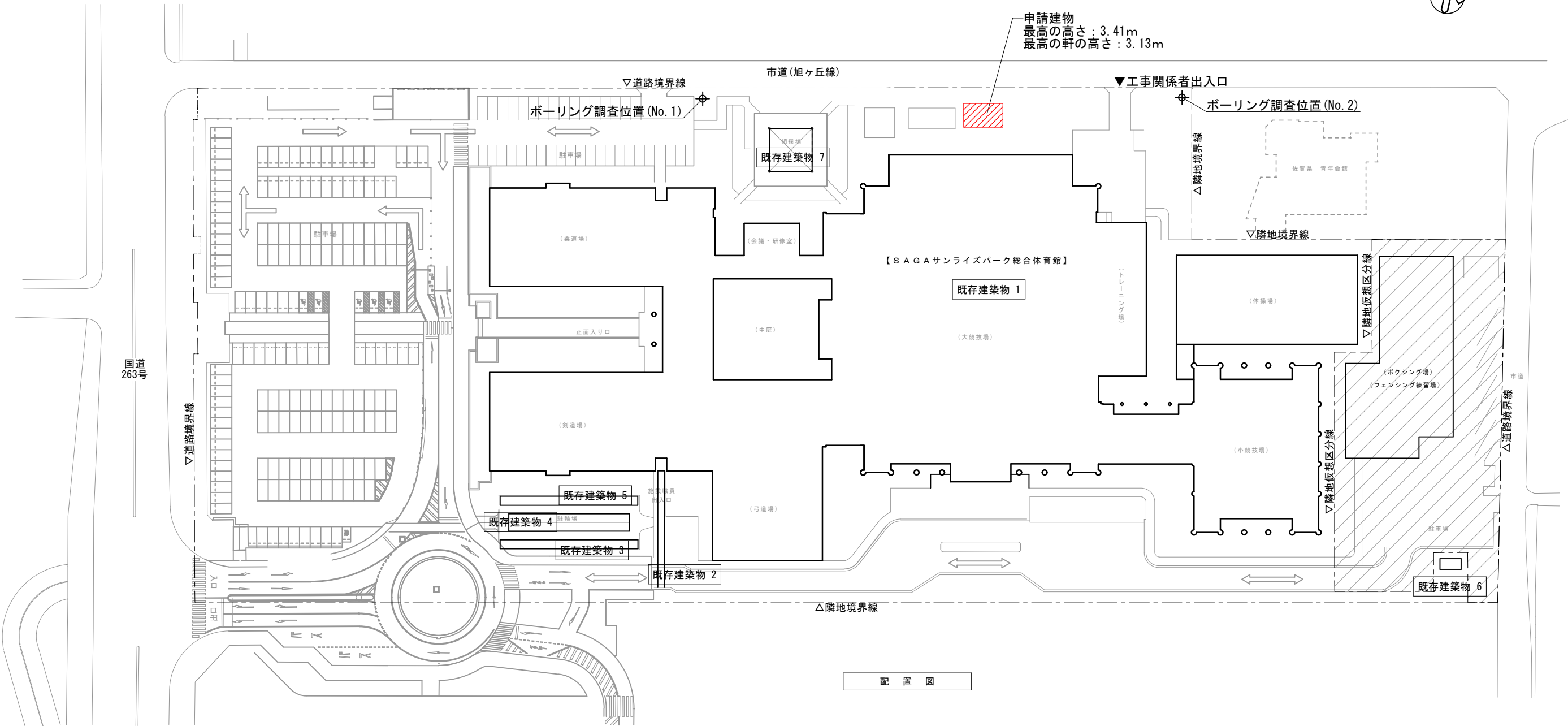
附近見取図 Non Scale

建物名	構造	建築面積 (㎡)	床面積 (㎡)
既存建物 1 総合体育館	RC造 一部鉄骨造	12,120.89	12,711.39
既存建物 2 開放廊下	アルミ造 その他	69.09	0.00
既存建物 3 自転車置場	鉄骨造 その他	51.20	51.20
既存建物 4 自転車置場	鉄骨造 その他	100.80	100.80
既存建物 5 自転車置場	鉄骨造 その他	51.20	51.20
既存建物 6 ゴミ置き場	鉄骨造 その他	8.97	8.97
既存建物 7 相撲場	鉄骨造 その他	100.00	100.00
小 計 (㎡)		12,502.15	13,023.56
申請建物 防災倉庫	鉄骨造 その他	50.76	50.76
合 計 (㎡)		12,552.91	13,074.32

S A G A プラザ防災倉庫新築工事

- ・本工事は体育館施設の通常利用を行いながらの新築工事である。
よって施設運営に支障を与えない様、以下の施工条件で工事を行うこと。

- 施設内外について
- ・工事期間中、工事範囲迄の通路は物品搬入車輛や職員等が移動等に使用するので、
工事車輛動線は原則分離することし、工程上重複する場合においては施設管理者と協議を行う。
 - ・大きな騒音が発生する作業は施設側と事前協議を行うこと。
 - ・その他必要に応じ、適切に交通誘導員を配置し安全に十分配慮を行う。
- ※土工事に関しては地中埋設物に注意して工事を行うこと。



配 置 図

共通事項

工事名 07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事

図面名 付近見取図・全体配置図

縮尺 S=1/1000

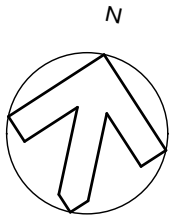
設計 令和 年 月

佐賀県危機管理防災課

1級建築士 第 号

図番

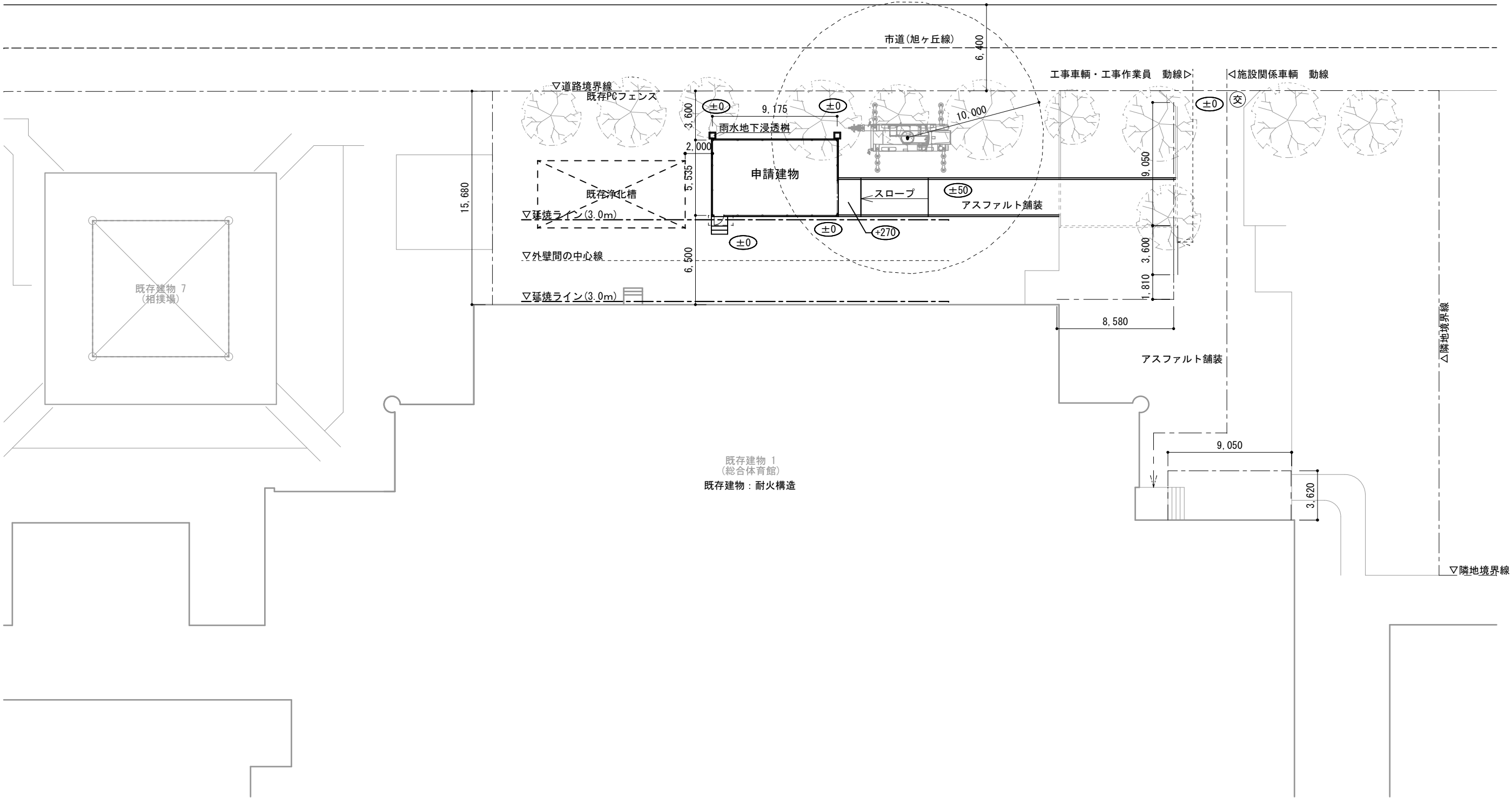
A-03



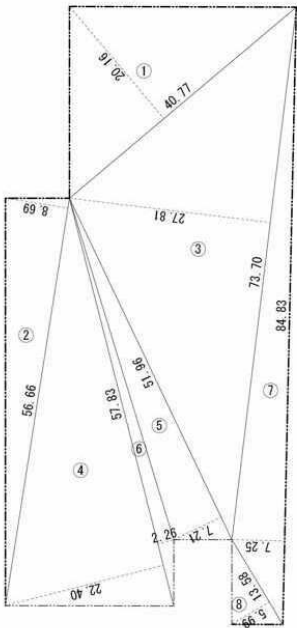
指定仮設凡例	
	仮囲い：ミニフェンス 1,810×1,200/台 90日
	A型バリケード 1,200×800/台 90日
	交通誘導員B 【延べ6人】

任意仮設凡例	
	ラフテレーンクレーン 4.9t吊 オペレータ付き 【1日】

- 工事車輛・工事作業員 動線
- 一般車輛 動線



共通事項		工事名	07危防工第7号　S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺	S=1/300	佐賀県危機管理防災課		図番	A-04
		図面名	配置図・仮設計画図	設計	令和　　年　　月	1級建築士　第　　　　　号			



敷地求積図 S=1/500

敷地面積表		
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
①	40.77 × 20.16	821.9232
②	56.66 × 8.69	492.3754
③	73.70 × 27.81	2,049.5970
④	57.83 × 22.40	1,295.3920
⑤	51.96 × 7.21	374.6316
⑥	57.83 × 2.26	130.6958
⑦	84.83 × 7.25	615.0175
⑧	13.58 × 5.99	81.3442
倍面積		5,860.9767
面 積		2,930.48㎡

- 旧総合体育館
- ・計画通知 確認番号：
平成25年7月10日 第H25計申建築佐市建築00002号
 - ・検査済証番号：
平成26年2月18日 第H25計完建築佐市建築00033号

【敷地面積】 34,196.16 ㎡ ※求積図(1)参照

- ボクシング・フェンシング練習場(仮想区分)
- ・計画通知 確認番号：
第H30計申建築佐市建築00001号
 - ・検査済証番号：
第R1計完建築佐市建築00007号

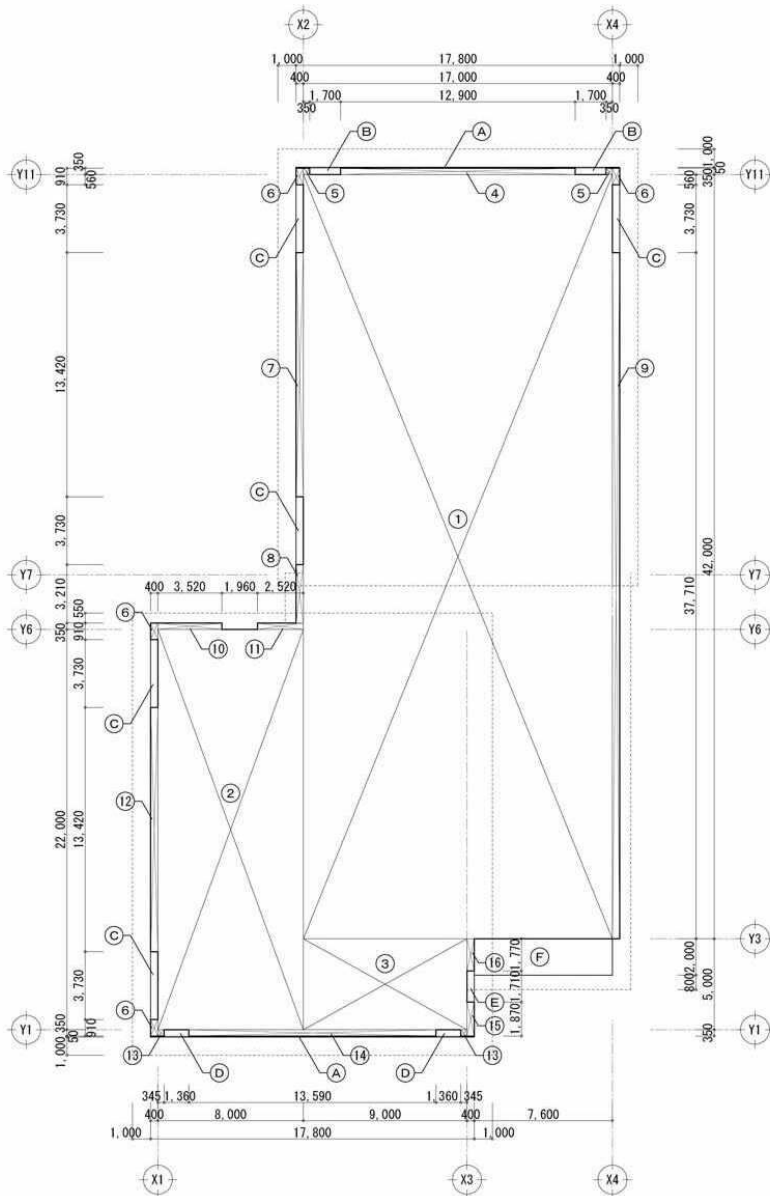
【敷地面積】 2,930.48 ㎡ ※求積図(2)参照

- 総合体育館 敷地面積
- | | | | | |
|-------------|---|-----------------------|---|-------------|
| 旧総合体育館 | － | ボクシング・フェンシング練習場(仮想区分) | ＝ | 最新総合体育館敷地面積 |
| 34,196.16 ㎡ | － | 2,930.48 ㎡ | ＝ | 31,265.68 ㎡ |

建築面積・床面積表			
計算式			
①	42.000 × 17.000	=	714.000000
②	22.000 × 8.000	=	176.000000
③	5.000 × 9.000	=	45.000000
④	0.350 × 12.900	=	4.515000
⑤	0.350 × 0.350	=	0.122500
⑥	0.910 × 0.400	=	0.364000
⑦	13.420 × 0.400	=	5.368000
⑧	3.210 × 0.400	=	1.284000
⑨	37.710 × 0.400	=	15.084000
⑩	0.350 × 3.520	=	1.232000
⑪	0.350 × 2.520	=	0.882000
⑫	13.420 × 0.400	=	5.368000
⑬	0.350 × 0.345	=	0.120750
⑭	0.350 × 13.590	=	4.756500
⑮	1.870 × 0.400	=	0.748000
⑯	1.770 × 0.400	=	0.708000
A	0.050 × 17.800	=	0.890000
B	0.350 × 1.700	=	0.595000
C	3.730 × 0.400	=	1.492000
D	0.350 × 1.360	=	0.476000
E	1.710 × 0.400	=	0.684000
F	2.000 × 7.600	=	15.200000

床面積	
①～④＋⑤×2＋⑥×4＋⑦～⑫	
＋⑬×2＋⑭～⑯	= 976.888000
計	976.88

建築面積	
床面積 ＋ (A×2＋B×2＋C×5	
＋D×2＋E＋F)	= 1,004.154000
計	1,004.15



求積図 S=1/200

共通事項

工事名 07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事

図面名 敷地求積図(2) (ボクシング場仮想区分)

縮尺 S=1/1000

設計 令和 年 月

佐賀県危機管理防災課

1級建築士 第 号

図番

A-06

建築概要			
名 称	SAGAプラザ 防災倉庫		
建築場所	佐賀県佐賀市日の出1-21-15		
用途地域	近隣商業地域		
防火指定	指定なし		
その他の地区	法22条区域		
主要用途	防災倉庫	主要構造部	S造(軽量鉄骨造)
構 造	S造(軽量鉄骨造)平屋建て（プレハブ構造）	積雪量	積雪30cm以下
敷地面積	31,265.68㎡	建ぺい率	80%
面積表			
		申請建物	既築建物
階別面積	1階床面積	50.76 ㎡	10,528.19 ㎡
	2階床面積	0.00 ㎡	2,183.20 ㎡
面 積	床面積	50.76 ㎡	13,023.56 ㎡
	建築面積	50.76 ㎡	12,502.15 ㎡
建ぺい率	12,552.91 ÷ 31,265.68 = 40.149 ≒ 40.15 % < 80% ・ ・ ・ OK		
容積率	13,074.32 ÷ 31,265.68 = 41.816 ≒ 41.82 % < 200% ・ ・ ・ OK		

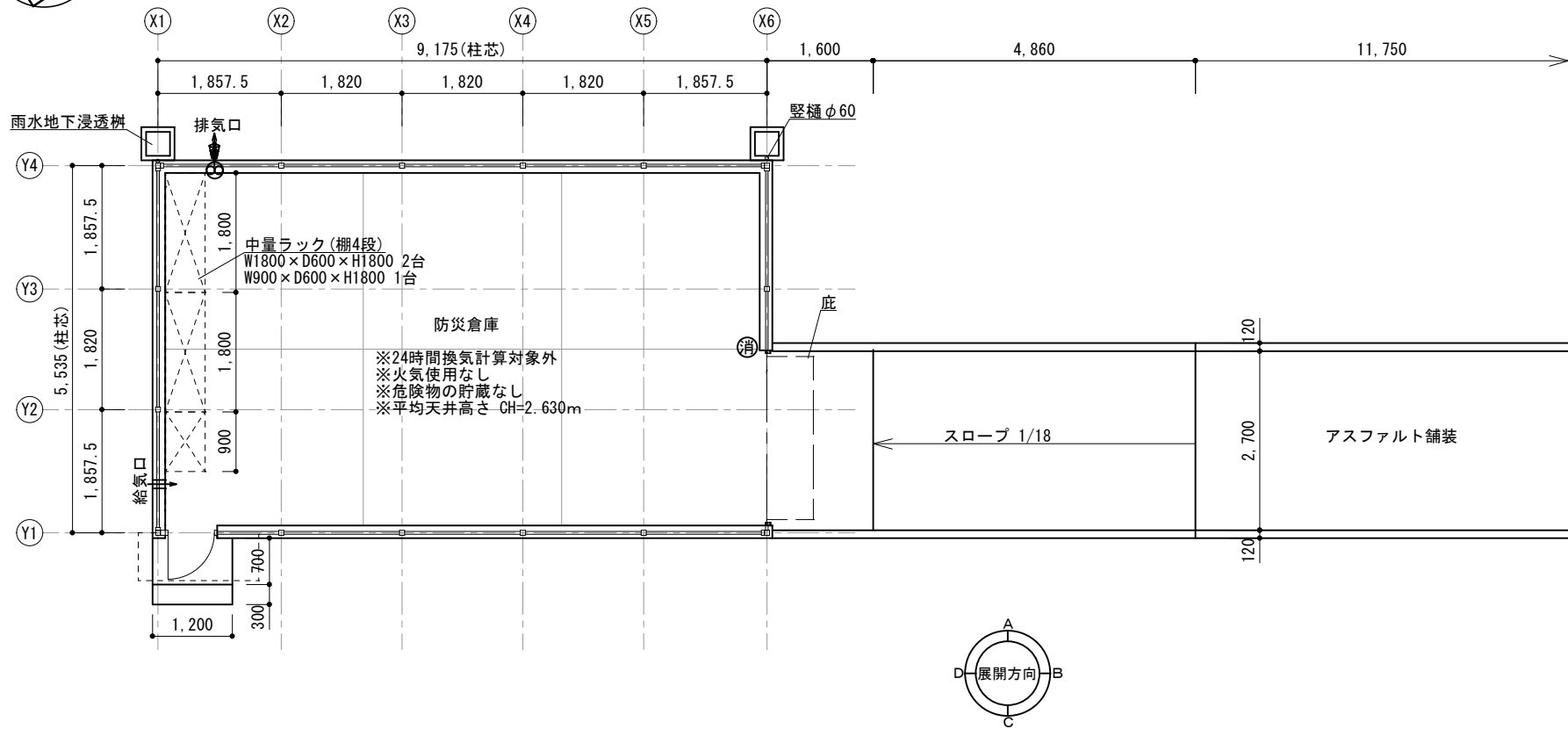
外部仕上表	
屋根	折板：ガルバリウム鋼板 t=0.6 断熱材 t=4.0 裏打ち
庇	アルミ
外壁	内外仕上：サンドイッチパネル（カラー鋼板 t=0.3 両面
	断熱材：硬質ウレタンフォーム t=40)
巾木	薄塗モルタル仕上げ
雨樋	軒樋：塩ビ製角樋 120
	縦樋：カラー塩ビ管 φ60
板金金物	化粧幕板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6
	土台水切：鋼板 t=0.6
塗装	鉄部見え掛り：錆止め塗装

外部建具	
AD-1	アルミ製片開きフラッシュドア
	金物：ステンレス丁番、ドアクローザー、レバーハンドル、箱錠
	備考：(内)サムターン、(外)シリンダー
SS-1	内付け軽量バランスシャッター(手動)
	金物：シャッター錠

特記事項
※ 壁・天井・床・建具仕上に用いる建築材料は全てF☆☆☆☆、または規制対象外の材料を使用する。
※ 室内では火気を使用しない。
※ その他仕様はプレハブ各社仕様に依る。
※ 外部建具は製造メーカー仕様に依る。
※ プレハブ業者決定後、基礎工事他取合いについて協議し、計画通知の変更協議を行い、変更の手続きを行うこと。
※ 倉庫寸法は参考値とし、表記数値以上であれば可とする。（要協議）

内部仕上表								
	室名	床仕上／床下地	壁仕上／壁下地	廻り縁	天井仕上／天井下地	天井高	設備	備考
1 階	倉庫	土間コンクリート 金ゴテ仕上	外壁材表し、鉄骨表し	なし	屋根材表し、鉄骨梁表し	2,630	・換気扇 ・照明 ・誘導標識	・スチール中量ラック W1800×2台、W900×1台

共通事項		工事名	07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺	佐賀県危機管理防災課		図番号	A-07
		図面名	建築概要・仕上表	設計	令和 年 月	1級建築士 第 号		



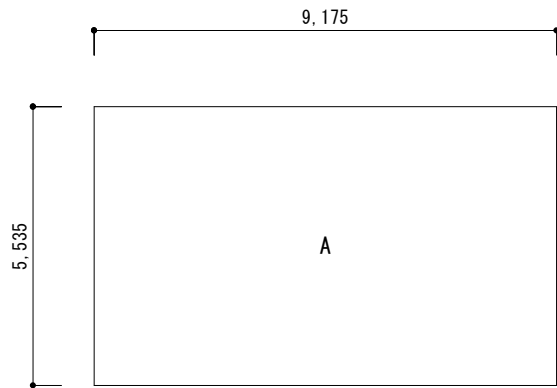
平面図 S=1/100

※消防法上 無窓階

- 【凡例】
- 自然給気口 φ150
 - 排気口
 - 消火器 (備品)

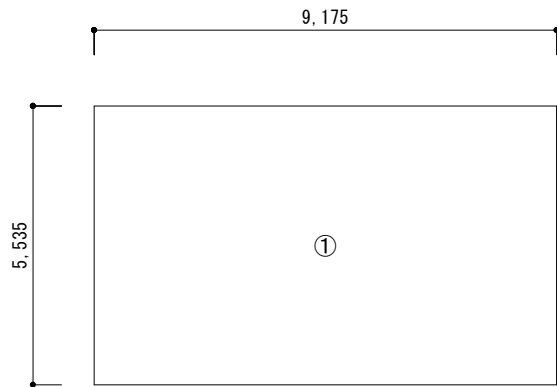
排気口 (参考) EX-20SH9	
定格電圧 (V)	100V
定格周波数 (Hz)	60
定格電流 (A)	0.165
定格消費電力 (W)	16.5
風量 (m3/h)	588

片開きフラッシュドア		軽量バランスシャッター	
材質	アルミ 見込: t=70	材質	カラー鋼板 スラット: t=0.5
ガラス			
金物	ステンレス丁番、ドアクローザー	金物	シャッター錠、シャッターボックス
	レバーハンドル、箱錠		額縁3方枠
備考	(内)サムターン、(外)シリンダー	備考	水切り無し



建築面積求積図 S=1/150

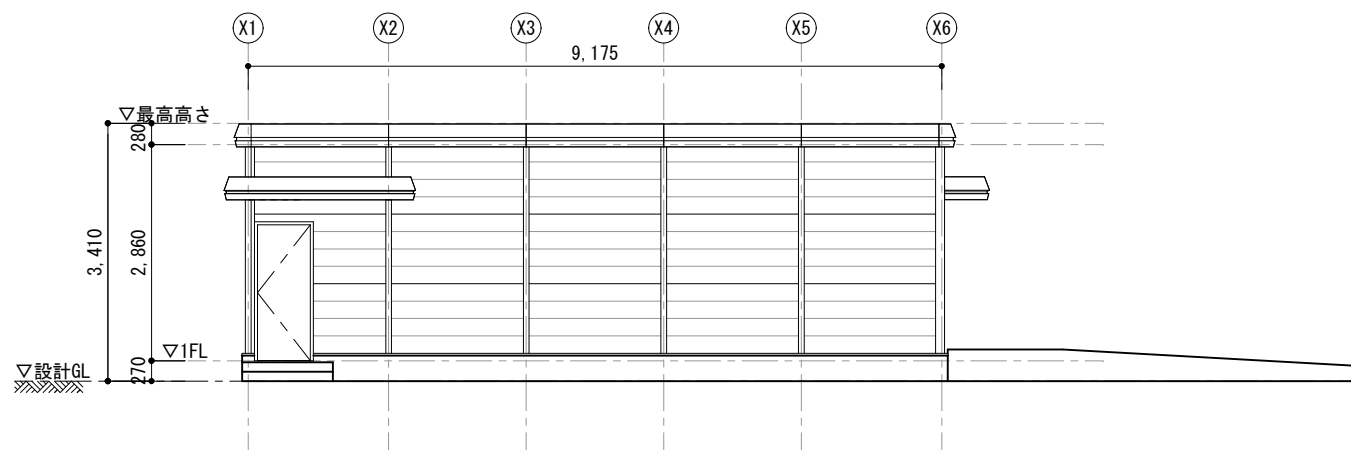
建築面積計算表		
A	9.175 × 5.533 = 50.765275	50.76
建築面積		50.76 m ²



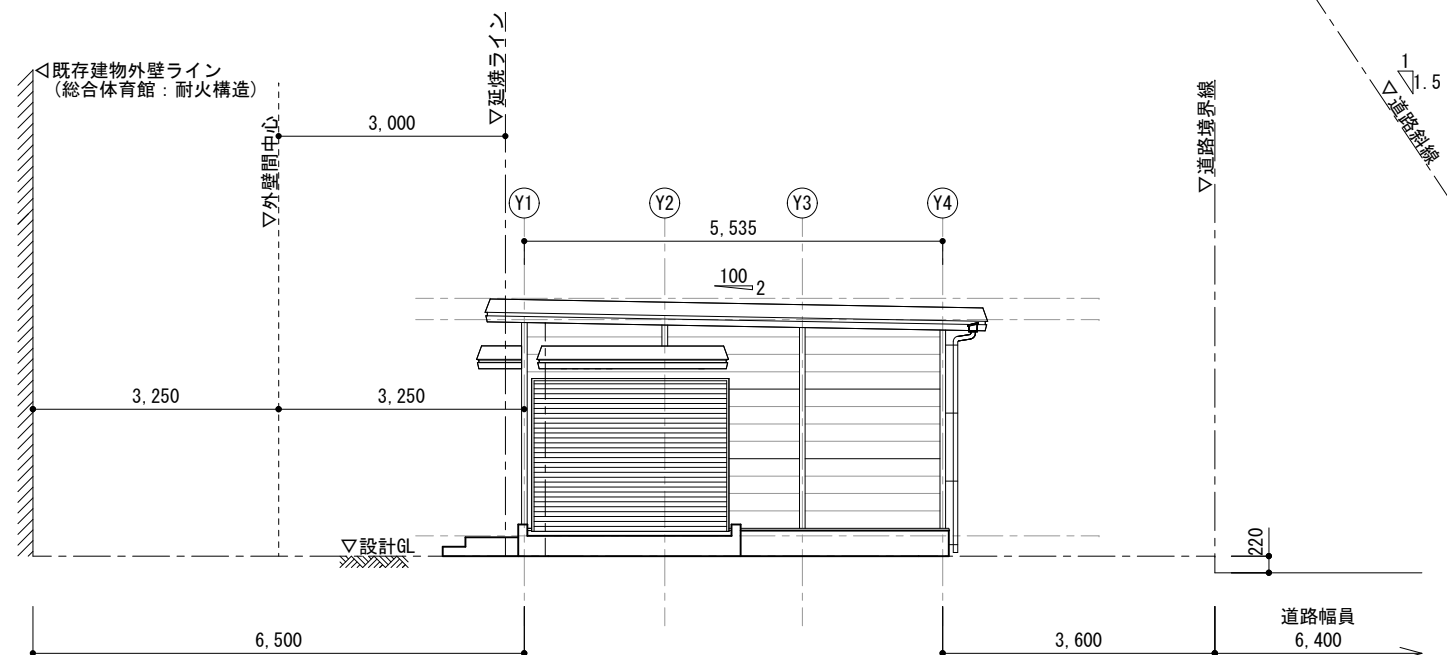
床面積求積図 S=1/150

床面積計算表		
①	9.175 × 5.533 = 50.765275	50.76
延床面積		50.76 m ²

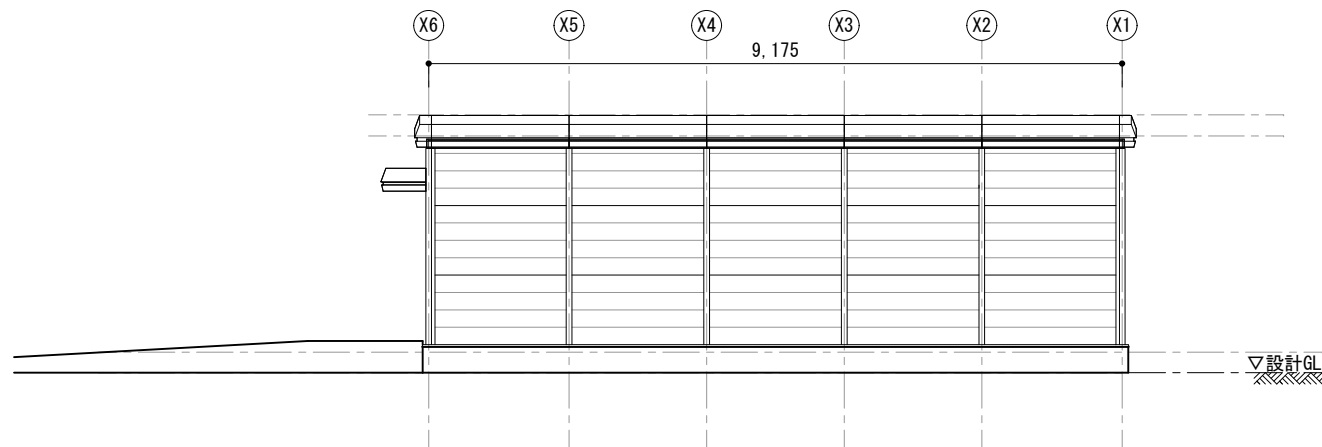
共通事項		工事名 07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺 S=1/100・150	佐賀県危機管理防災課	図番 A-08
		図面名 平面図・建物求積図・建具表	設計 令和 年 月	1級建築士 第 号	



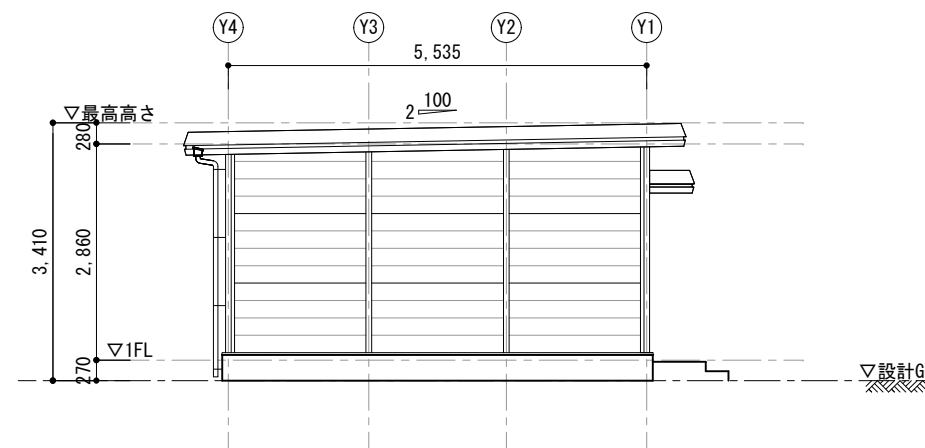
南立面図



東立面図



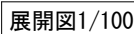
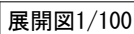
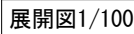
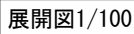
北立面図



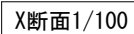
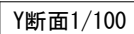
西立面図

共通事項		工事名 07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺 S=1/100	佐賀県危機管理防災課	図書番号 A-09
		図面名 立面図	設計 令和 年 月	1級建築士 第 号	

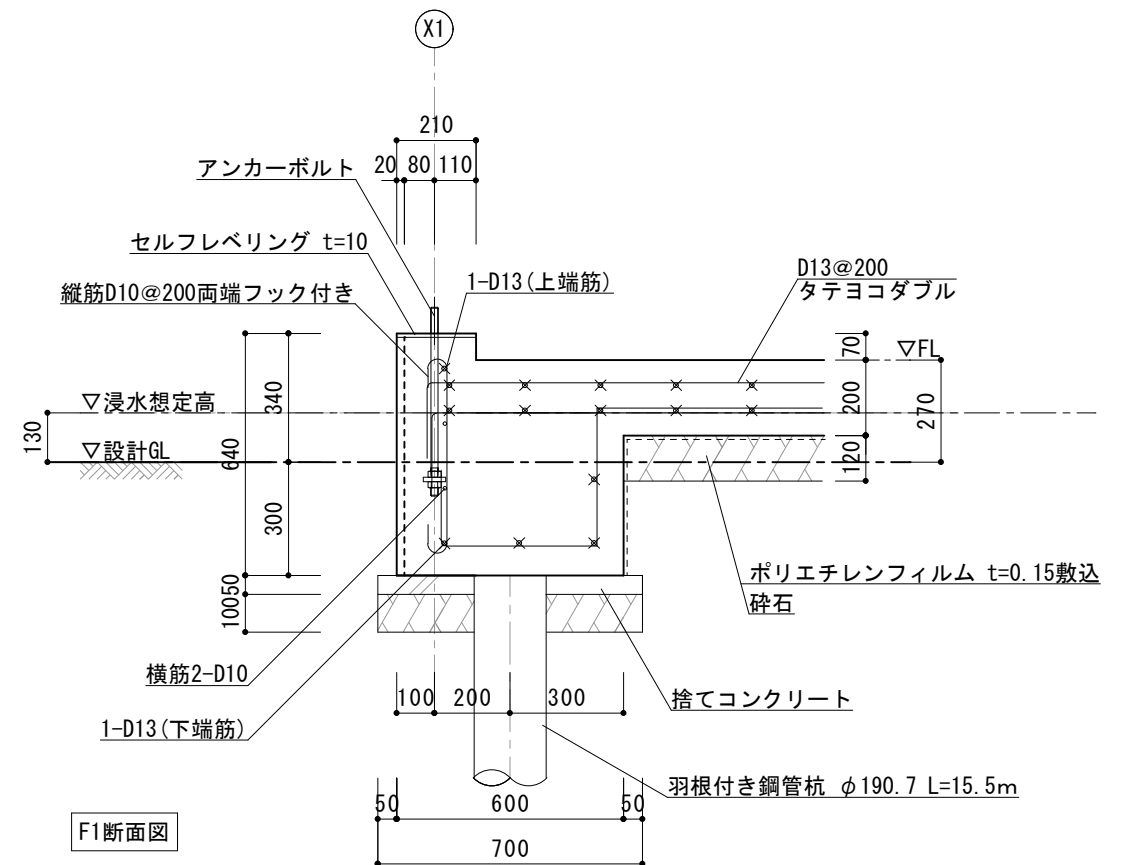
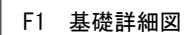
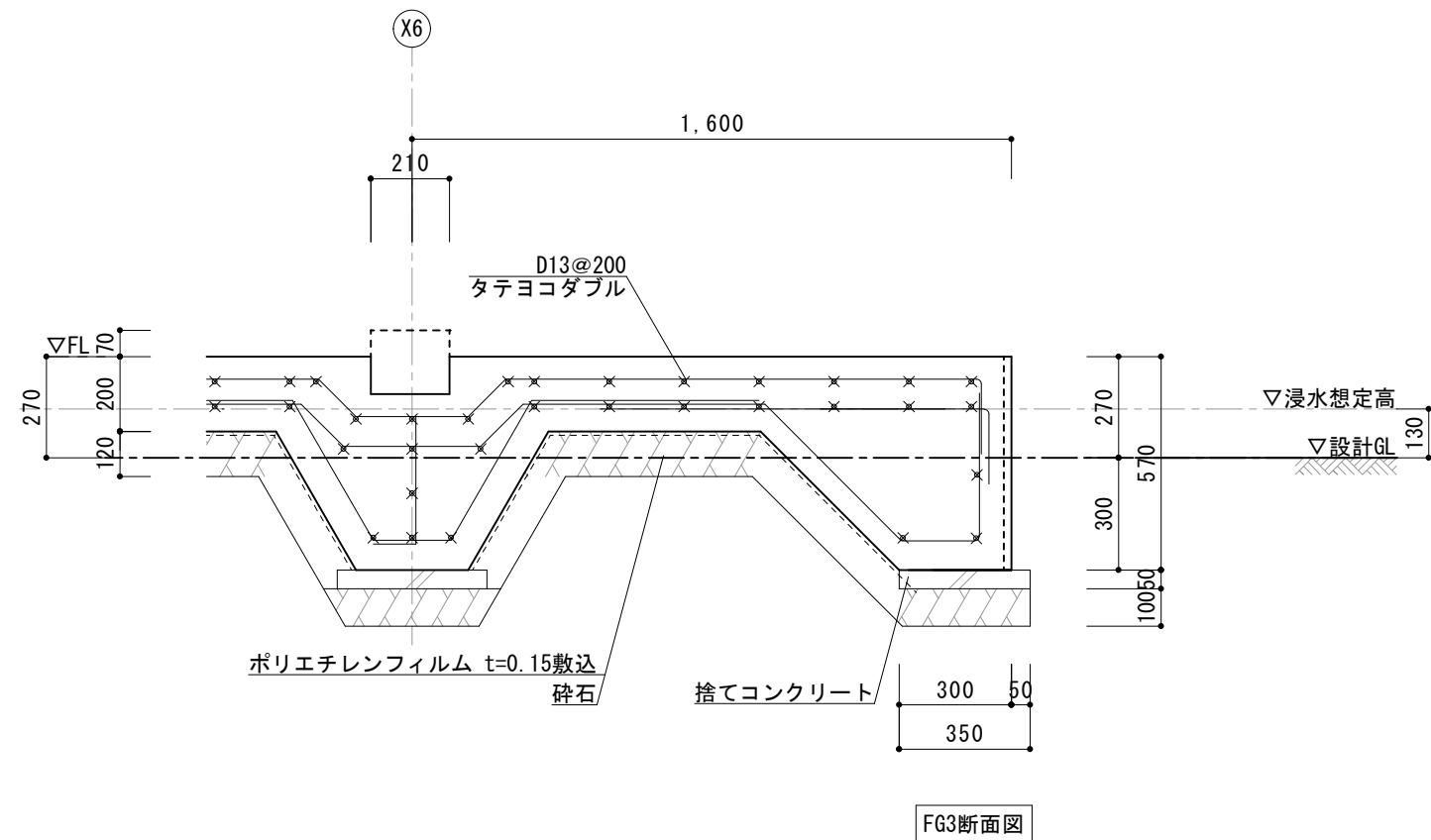
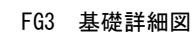
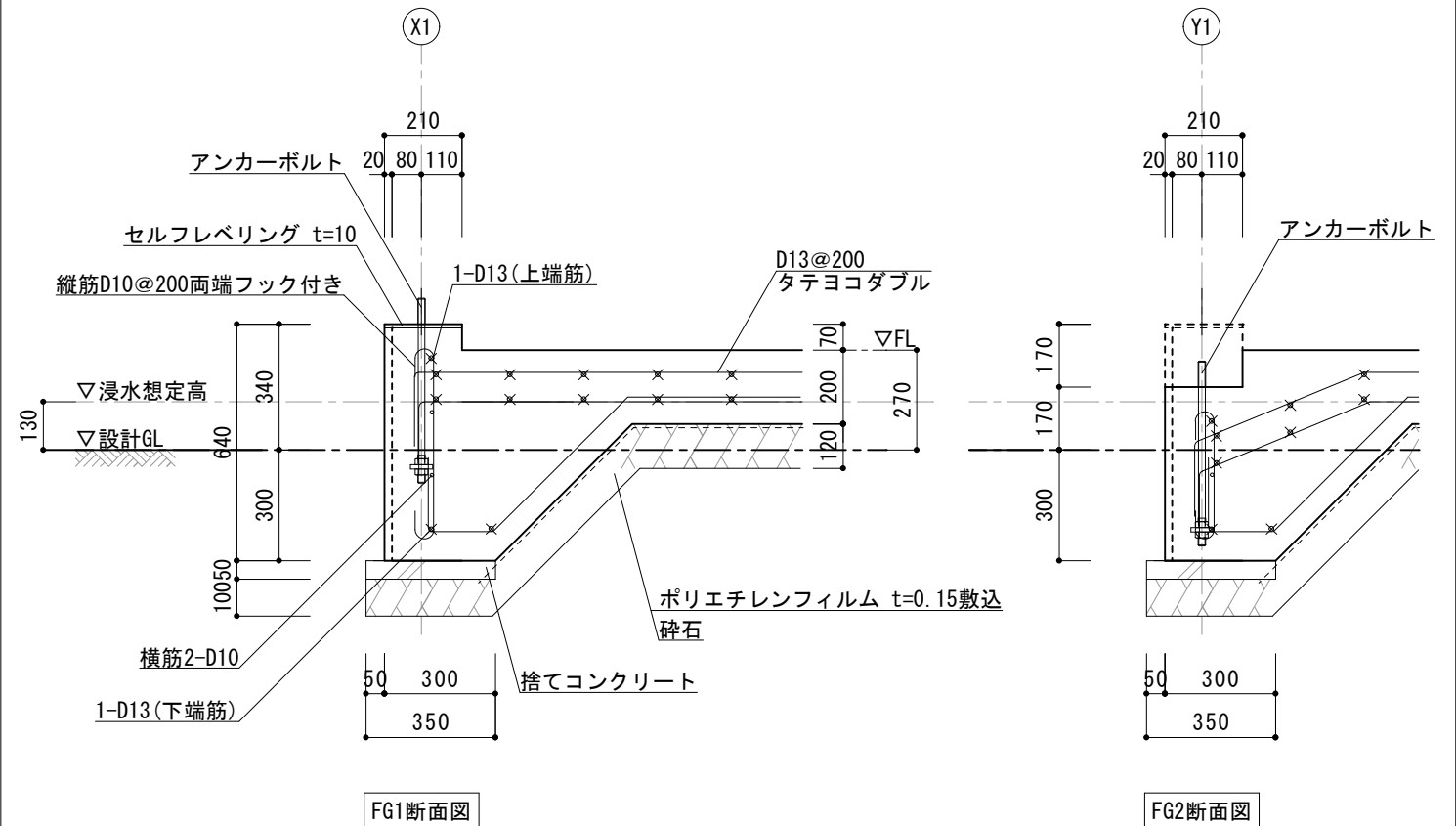
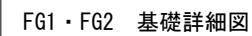
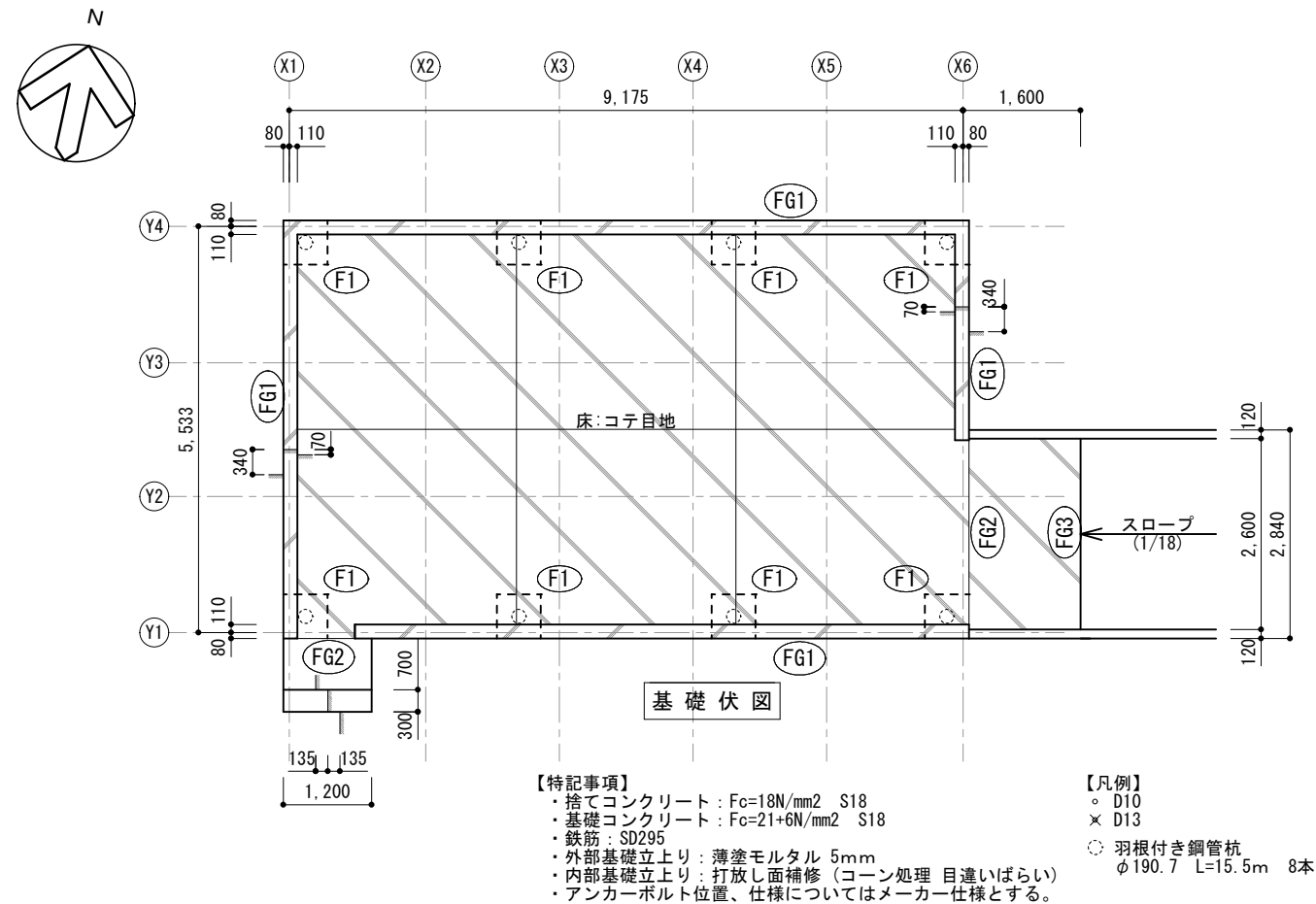
■展開図



■ 断面図

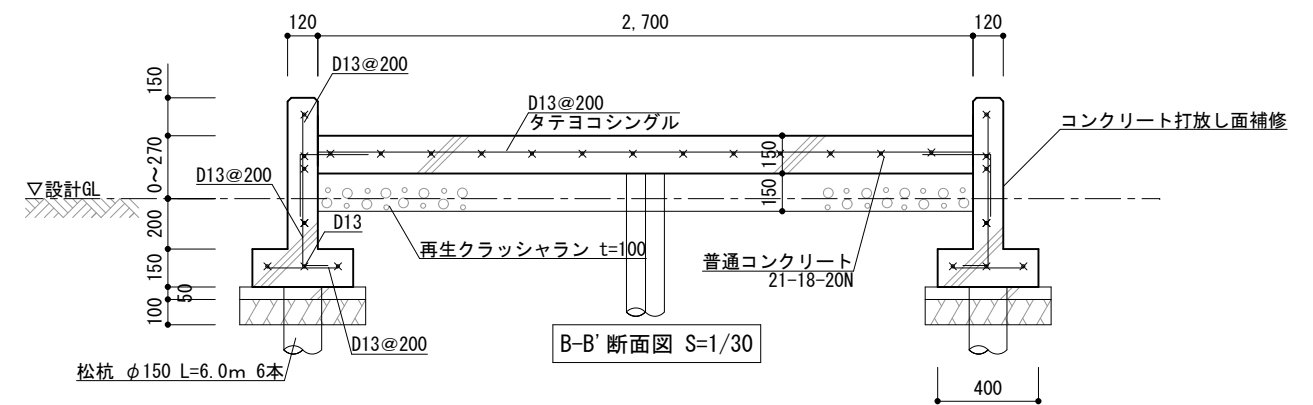
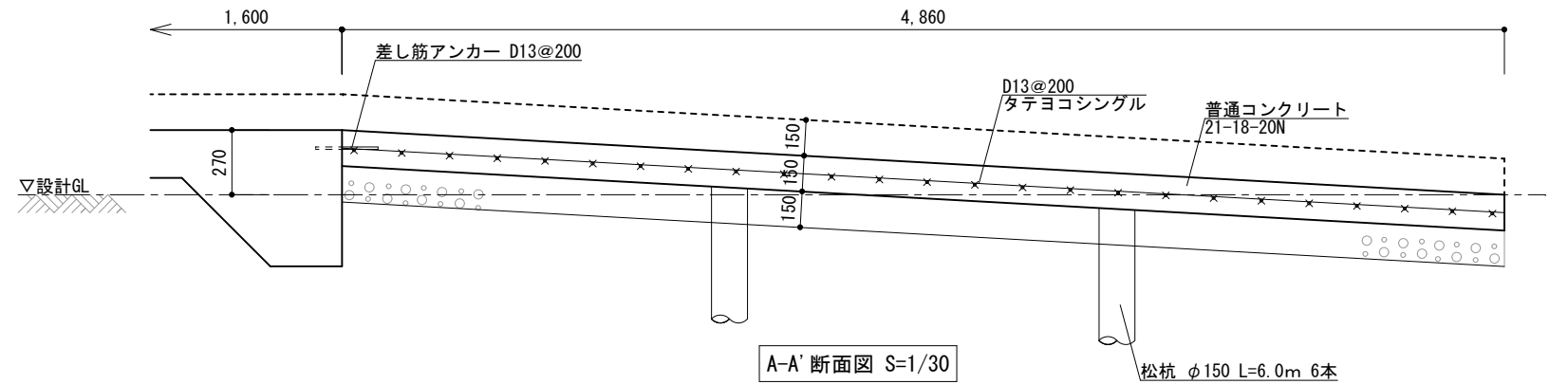
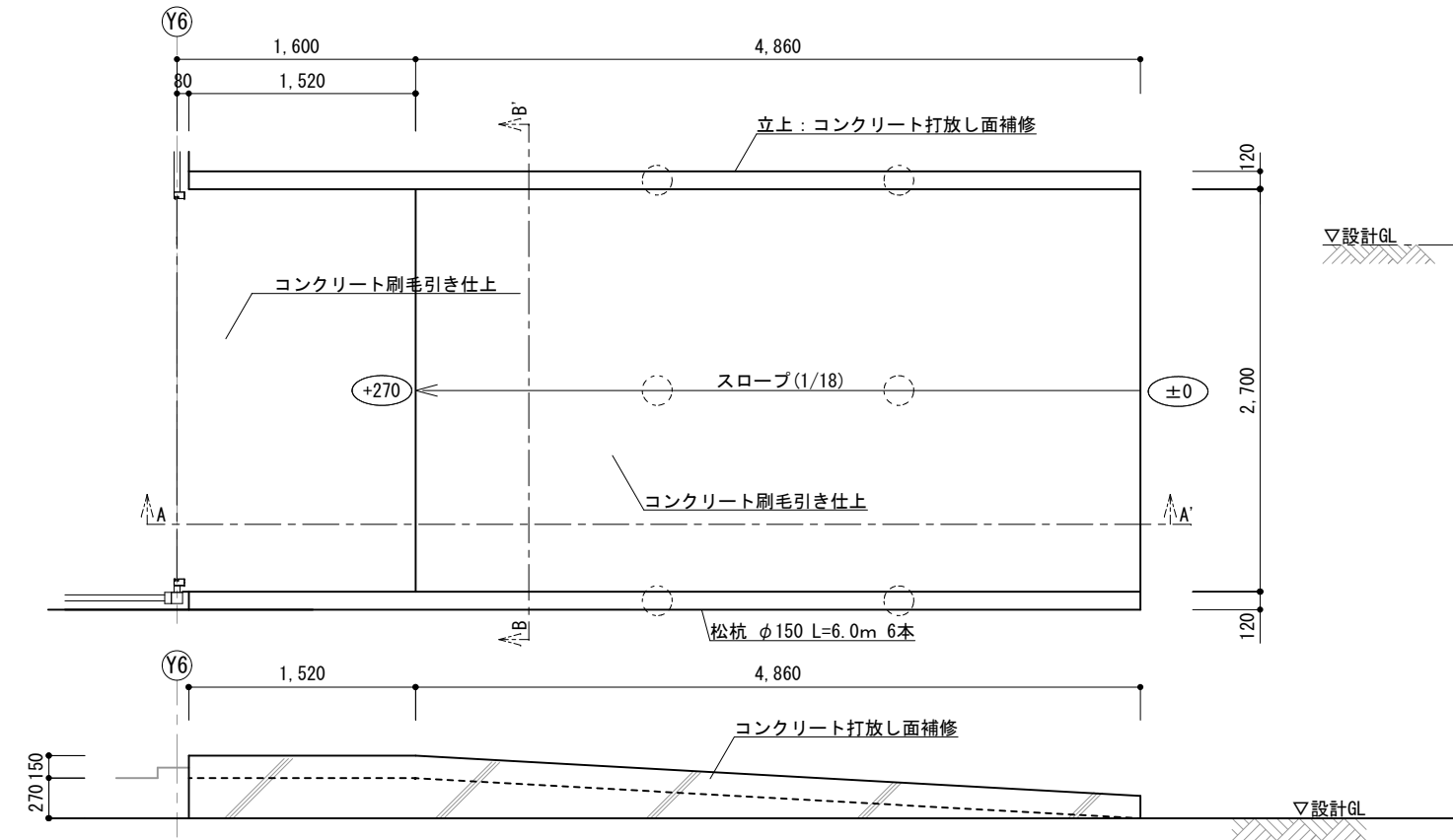


共通事項		工事名	07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺	S=1/100	佐賀県危機管理防災課	図番号 A-10
		図面名	展開図・断面図	設計	令和 年 月	1級建築士 第 号	

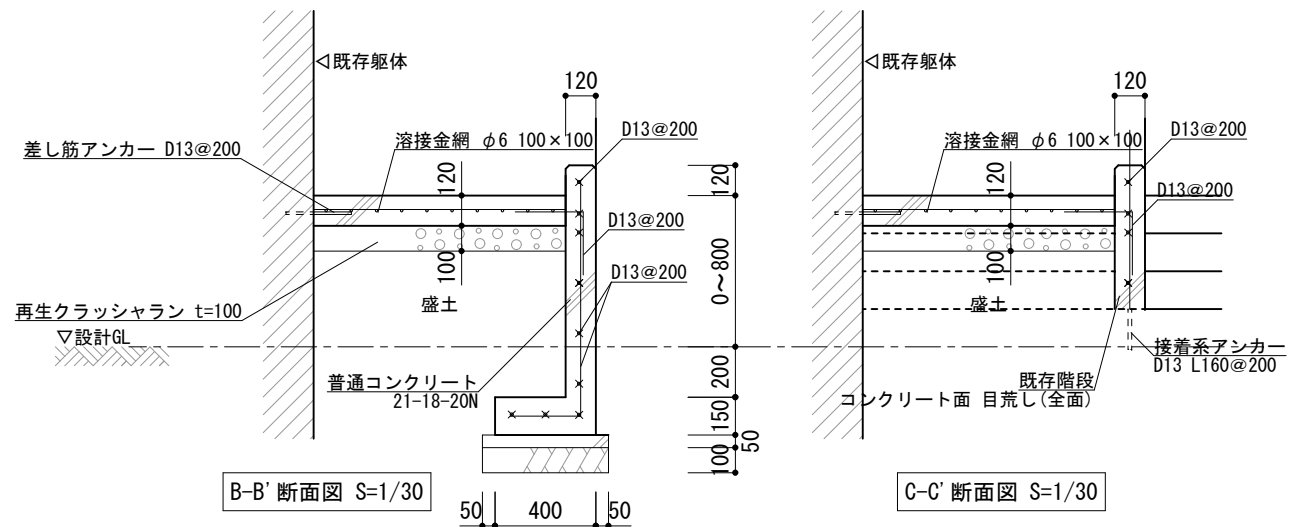
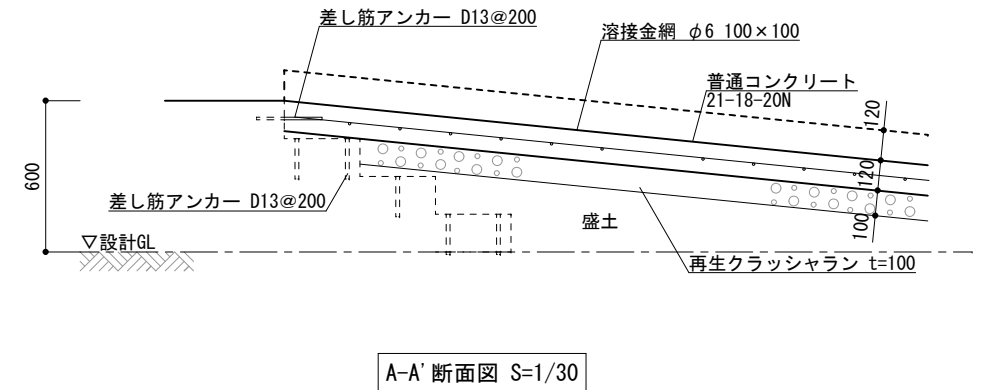
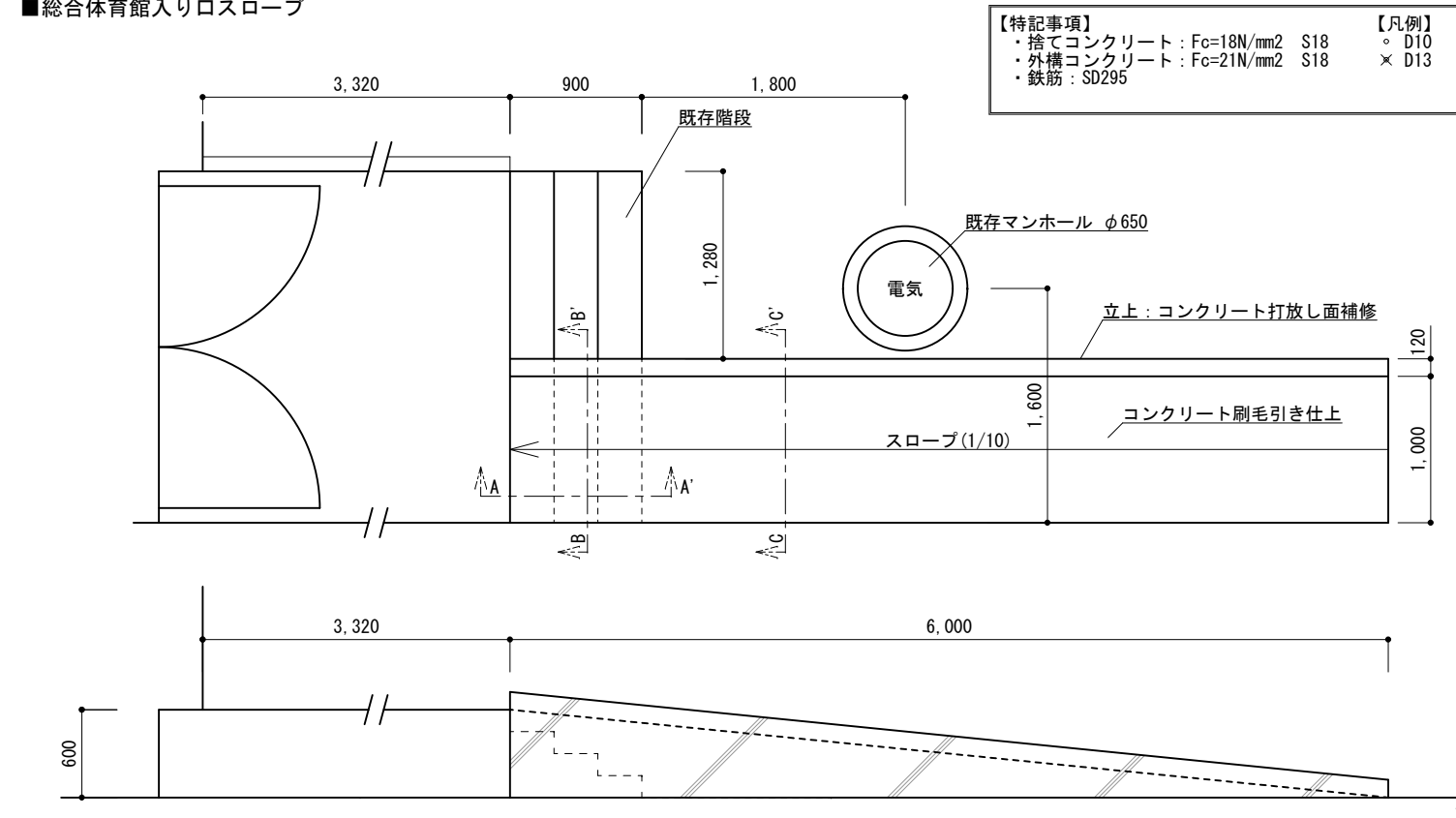


共通事項		工事名	07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺	S=1/20・1/100	佐賀県危機管理防災課	図番号 A-11
		図面名	基礎伏図・基礎詳細図	設計	令和 年 月	1級建築士 第 号	

■防災倉庫スロープ



■総合体育館入りロスロープ



共通事項		工事名 07危防工第7号 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺 S=1/30・50	佐賀県危機管理防災課	図書 A-13
	図面名 外構詳細図		設計 令和 年 月	1級建築士 第 号	

Table with 7 columns: 時刻, 太陽高度, 太陽方位角, 影長倍率, X値, Y値. It contains 12 rows of data for winter conditions.

指定点日影時間

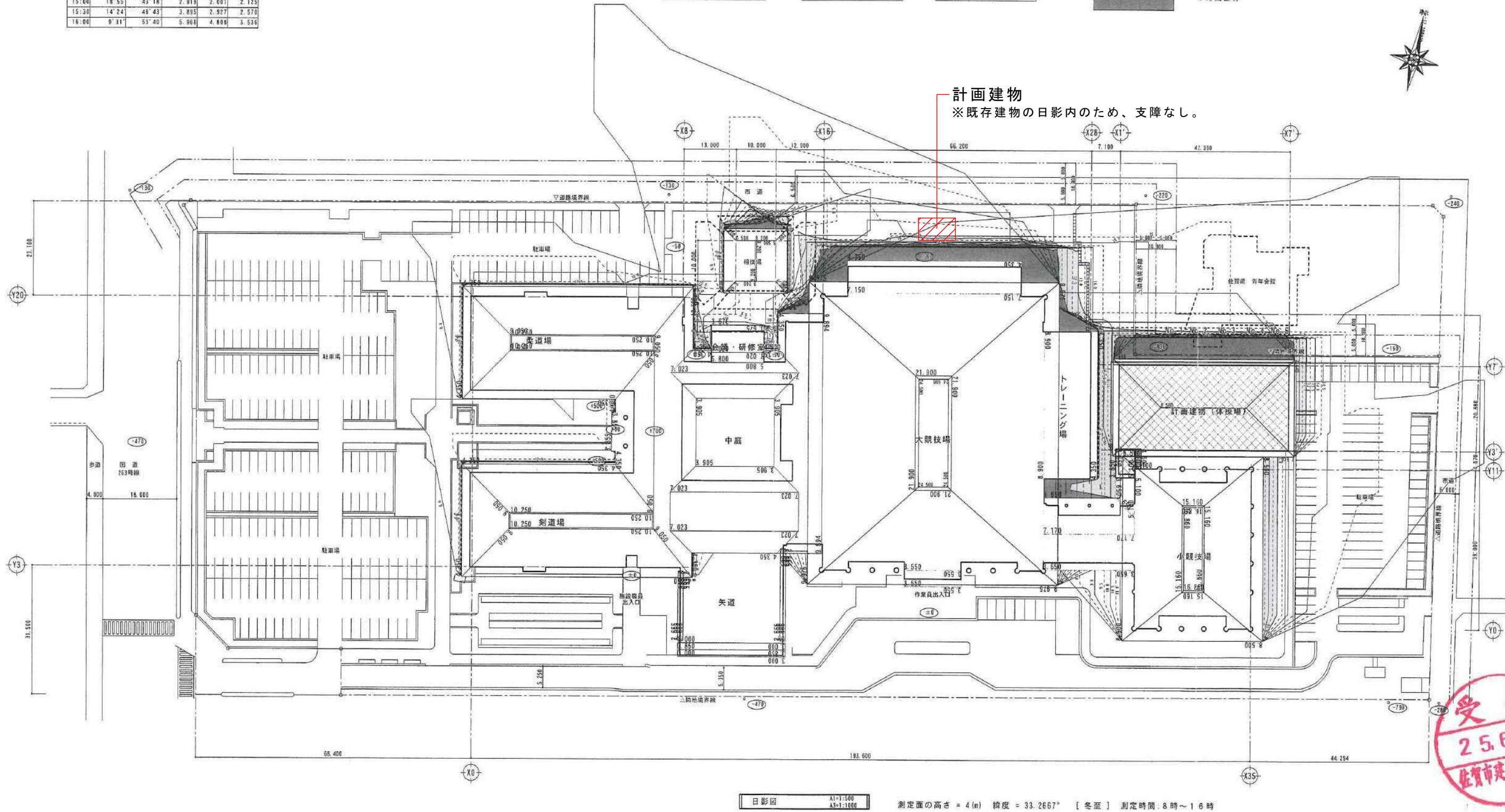
- NO.1 (3:36'19") (8:00'00")-(16:42'00") (15:05'50")-(16:00'00")
- NO.2 (3:36'19") (8:00'00")-(16:42'00") (15:05'50")-(16:00'00")
- NO.3 (3:36'20") (8:00'00")-(16:42'00") (15:05'49")-(16:00'00")
- NO.4 (3:36'20") (8:00'00")-(16:42'00") (15:05'49")-(16:00'00")
- NO.5 (3:36'20") (8:00'00")-(16:42'00") (15:05'49")-(16:00'00")

Table with 3 columns: 時刻, 影長倍率, 日影長さ[m]. It contains 12 rows of data for winter conditions.

Table with 3 columns: 時刻, 影長倍率, 日影長さ[m]. It contains 12 rows of data for winter conditions.

Table with 3 columns: 時刻, 影長倍率, 日影長さ[m]. It contains 12 rows of data for winter conditions.

3 時間部分
5 時間部分



受付
25.6.20
佐賀市建築指導課

日影図 A1=1:500 A3=1:1000 測定面の高さ = 4 (m) 緯度 = 33.2667° [冬至] 測定時間: 8 時 ~ 16 時

共通事項

工事名 07危防工第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事

図面名 日影図

縮尺

設計 令和 年 月

佐賀県危機管理防災課

1級建築士 第 号

A-14

116

[illegible]

シート No.

ボーリング名	No. 2		調査位置		佐賀市日の出1丁目地内					北緯		
発注機関	佐賀市下水道課				調査期間		平成 年 月 日 ~ 年 月 日				東経	
調査業者名	株式会社カミナガ佐賀営業所 電話(0952-31-7148)			主任技師								
孔口標高	5.32m	<div>角 180° 上 90° 度 下 0° 0°</div>	<div>方 北 270° 西 180° 南 90° 東</div>	<div>地盤勾配 鉛直 90° 水平 0° 0°</div>	試錐機	YSO-05			ハンマー 落下用具	コーンブリー		
総掘進長	18.00m				エンジン	NFD-9			ポンプ	GP-5		

[illegible]

203

号

A-15

07危防工第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事

特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所

佐賀市

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一区分	備考
防災倉庫	S造	1	50.76		

3. 工事種目及び工事科目

○印の付いたものが対象工事

工事科目	施工範囲別	工事種目				
	防災倉庫					屋外
電灯設備	新設一式					
動力設備						
電熱設備						
雷保護設備						
受変電設備						
電力貯蔵設備						
発電設備						
構内情報通信網設備						
構内交換設備						
情報表示設備						
映像・音響設備						
拡声設備						
誘導支援設備						
テレビ共同受信設備						
監視カメラ設備						
駐車場管制設備						
防犯・入退室管理設備						
自動火災報知設備						
中央監視制御装置						
構内配電線路						新設一式
構内通信線路						
撤去工事						
仮設工事						

4. 指定部分

・ 無 ・ 有 (工期:令和 年 月 日) (一部完成) (対象部分:)

5. 設備概要

設備方式は、・に○印の付いたものを該当項目とする。

電灯設備	1 照明器具	・ 一般照明 ・ 非常照明 (・電源内蔵 ・電源別置)
	2 EPS	・ 有 ・ 無
動力設備	1 設備概要	・ 空気調和 ・ 暖房 ・ 冷房 ・ 換気 ・ 給排水 ・ 消火 ・ 排煙
雷保護設備	1 受雷部	・ 突針 ・ 構上上げ導体
受変電設備	1 設備方式	・ キュービクル式配電盤 ・ 開放形配電盤
	2 型式	・ 屋内型 ・ 屋外型
発電設備	1 発電機	・ () 相 () 線式 () V ・ 定格出力 () kVA ・ 運転時間 () 時間
	原動機	・ ディーゼル ・ ガスタービン
	燃料	・ 軽油 ・ 灯油 ・ A重油
	2 太陽光発電装置	・ 太陽電池アレイ公称出力 () kW ・ 系統連系 (有/無)
	3 その他発電装置	・ () 発電装置 定格出力 () kVA
通信・情報設備	1 構内情報通信網装置	・ ネットワーク管理装置 ・ ファイアウォール ・ リピータ ・ ルータ
	2 構内交換装置	・ 電子交換機 ・ ボタン電話装置
	3 情報表示装置	・ マルチサイン装置 ・ 情報表示装置 ・ チャイム ・ 時刻表示装置 ・ 出退表示装置
	4 映像・音響装置	・ 映像装置 ・ 音響装置
	5 拡声装置	・ 一般放送用 ・ 非常放送用
	6 誘導支援装置	・ 音声誘導装置 ・ インターホン ・ 呼出装置
	7 テレビ共同受信装置	・ UHS ・ BS ・ CS ・ 有線 (CATV)
	8 テレビ電波障害防除装置	・ 有 ・ 無
	9 監視カメラ装置	・ カメラ ・ ビデオモニタ ・ タイムラプスVIR ・ デジタルレコーダ
	10 駐車場管制装置	・ 管制装置 ・ 検知器 ・ 信号灯 ・ 警報灯 ・ 発券機
	11 防犯・入退室管理装置・制御装置	・ 制御装置
	12 自動火災報知装置	・ P型受信機 ・ R型受信機
	13 自動閉鎖装置	・ 防火戸用 ・ 防火シャッター用 ・ 防煙ダンパー用
	14 非常警報装置	・ 埋込形 ・ 露出形
	15 ガス漏れ火災警報装置	・ 液化石油ガス用 ・ 都市ガス用
中央監視制御設備	1 方式	・ 警報盤 ・ 簡易型監視制御 ・ 監視制御
構内配電線路	1 ふ設方式	・ 架空線式 ・ 地中埋込式
構内通信線路	1 ふ設方式	・ 架空線式 ・ 地中埋込式

II 工事仕様書

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省官庁官庁管轄部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下、「標準図」という。）による。

(2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、機械設備工事の工事仕様書は（ / ）図、建築工事の工事仕様書は（A-01）図による。

(3) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合、排出ガス対策型建設 機械を使用するものとする。なお、排出 ガス対策型建設機械に代えて、認定された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、同等の建設機械とみなすものとする。

※ 排出ガス対策型建設機械とは、指定要項に基づき指定された排出ガス対策型建設機械をいう。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。

(2) 特記事項のうち複数の項目から選択する事項は、・に○印の付いたものを適用する。

1 材料・機材の品質等

(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

(2) 本工事において別表-1に示す材料を使用する場合の材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。

① 品質及び性能に関する試験データを整理していること。

② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。

③ 安定的な供給が可能であること。

④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

2 環境への配慮

3 電気工作物の種類

4 電気保安技術者

5 電気工事士

6 工所用電力

・ その他

7 工所用仮設物

8 監督員事務所

9 仮設備

10 施工調査

11 足場その他

12 形状・寸法等

13 配線本数、管路等

14 金属製電線管の塗装

15 屋外の支持金物

16 耐震措置

17 地盤変位への対応

18 はつり

19 撤去後の補修

20 電路の保護

21 照明器具の接地

22 絶縁抵抗測定

23 インバータ装置の規約効率

・別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。

・本工事で設置する。

・ 内部仮設足場等 (・ 種 ・ 種)

・ 外部仮設足場等 (・ 種 ・ 種)

姿図の形状寸法等は、図面表示と多少相違してもよい。

ただし、監督員の承諾を受けるものとする。

分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配管配線経路、配線太さ、配線本数、管径等は、図面と相違しても差しつかえない。

ただし、監督員の承諾を受けるものとする。

露出配管は塗装を行う。 ・ 屋外 ・ 屋外 ()

屋外の支持金物、ボルト及びナットなどは、溶融亜鉛めっき仕上げ又はSUS製とする。

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。

なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。

(1) 設計用水平地震力

機器の重量 [kN] に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。

なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は、次による。

設計用標準水平震度 (Ks)

設置場所	機器種別	耐震安全性の分類			
		・ 特定の施設		・ 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地下・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

【備考】

水槽類には、オイルタンク等を含む。

重要機器は次のものを示す。

・ 受変電機器 ・ 配、分電盤 ・ 発電設備 ・ 直流電源装置

・ 交流無停電電源装置 ・ 交換機 ・ 自動火災報知受信機

・ 中央監視装置 ・ 通信総合盤

(2) 上層階の定義は次による。

2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階

中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。

(3) 設計用鉛直地震力

設計用水平地震力の1／2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

(4) 重量1kN以下の軽量な機器の耐震支持については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）に準拠あるいは同等な設計用地震力に耐える方法で設計・施工すること。

想定沈下量 (・小規模 ・中規模 ・大規模)

既存のコンクリート床、壁などの貫通部の穴開けは、図面に特記なき場合、原則としてダイヤモンドカッターによる。

なお、図面に特記がある場合、走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。

壁付器具、床置器具、天井付器具撤去後の取付けボルト孔、壁面、天井面の変色等は監督員と協議して補修を行う。

図面に特記なき引き下げ又は立ち上げ部分及び露出部分の配線はMM1 (A型) にて保護する。貫通部分の配線は、金属管などにて保護する。

コードペンダント以外の放電灯器具、LED照明器具及び水気のある場所の白熱灯器具は、接地する。ただし、二重絶縁構造等、接地の省略が可能なものは、監督員との協議による。（対地電圧が交流150V以下のLED照明器具を乾燥した場所に施設する場合は、監督員と協議し省略することができる。）

取外し再使用機器及び改修に関わる電路は、性能確認のため絶縁抵抗測定を行う。

三相可変速電動機用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力 (kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5
規約効率 (%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5

電動機出力 (kW)	11	15	18.5	22	30	37	45
規約効率 (%)	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

【備考】

(1) 規約効率は、JEM-TR 245 「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。

(2) 規約効率は、JIS C 4212 「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、1P4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

(3) 0.75kW以上の効率は、JIS C 4213 「低圧三相かご形誘導電動機—トッピングランナーモーター」の定格電圧200V、1P4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする

接地極の材料は下表による。なお、設置棒EB (14φ) の長さは1500mm以上とする。

接地の種類	記号	接地極	
共同接地	E_A, E_C, E_D	EP-0.9 (900×900×1.5t)	1枚以上
A種接地	E_A	EB (14φ、L=1500)	2本以上
B種接地	E_B		6本以上
C種接地	E_C		2本以上
D種接地	E_D		6本以上
高圧避雷器	E_{LH}	EP-0.6 (600×600×1.5t)	2枚以上
雷保護用	E_{LH}		1枚以上
構内交換機用	E_t	EP-0.9 (900×900×1.5t)	2本以上
電話引込口の保安器用	E_{Lft}	EB (14φ、L=1500)	1本以上
通信用	E_{At}		6本以上
通信用	E_{Dt}		1本以上
測定用	E_0		1本以上

25 呼び線

26 盤類の塗装

27 特定建設資材の処理

長さ1m以上の入線しない電線管には1.2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入し、行先表示を行う。

盤類キャビネットの塗装は、指定色仕上げとする。

本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律104号）の対象建設工事であり、分別解体、特定建設資材の再資源化等について適切な処理を行う。

ただし、工事契約後にやむを得ない事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議する。

分別解体・再資源化等の完了時に、以下の事項を書面に監督職員に報告する。

(1) 再資源化等が完了した年月日

(2) 再資源化等をした施設の名称及び住所

(3) 再資源化等に必要な費用

分別解体の方法

工程	作業内容	分別解体の方法
・建設設備	建設設備・内装材の取り外し	・手作業
・内装材等	(・有 ・無)	・手作業、機械作業の併用
・その他	その他の取り扱い	・手作業
()	(・有 ・無)	・手作業、機械作業の併用

特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をとする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をとする施設の名称	所在地
・コンクリート		
・コンクリート及び鉄から成る建設資材		
・木材		
・アスファルト・コンクリート		

再生資源利用計画書及び実施書は、建設副産物情報交換システム（コプリス）にて作成し提出すること。

28 発生材の処理等

発生材一時保管、集積場所構内に (・有 ・無)

・引渡しを要するもの (・金属類 ・電線、ケーブル類 ・蓄電池 ・照明器具)

・特別管理産業廃棄物 (・PCB使用機器 ・)

・PCB使用機器の有無については、調査を行い結果を監督員に報告する。

・PCB使用機器の取り扱いについては、監督員の指示を受ける。

・発生資源利用物 (・ランプ類 ・電線、ケーブル類 ・)

・引渡しを要するもの及び再生資源化を図るもの以外は、構外適切搬出処理とする。

・構内敷きならし ・構内指定場所へのたい積

・構外搬出 ・再利用を図る

29 建設発生土の処理

分類

受け入れ場所

搬出距離

建設発生土		
-------	--	--

上記に示す受け入れ場所・搬出距離は参考であり、実施にあたっては監督員と協議のうえ決定する。

共通事項

07危防工第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事

特記仕様書（電気設備工事）その1

縮尺

—

令和 年 月

一級建築士 登録 号

図番号

E-01-1

30

地中埋設標

31

標識シート

32

外灯ポール

33

線名札

34

ハンドホール内のケーブル余長

35

機器取付高さ

36

他工事または
他工種との工事区分

地中埋設標を設ける。材質価数は図示による。
(・電力用 ・通信用)

低圧地中幹線路及び通信地中幹線路にも設ける。

外灯ポールは、垂鉛付着量350g/m (JIS H8641「溶融垂鉛めっき」に規定するH D Z 35以上の溶融垂鉛めっきを施したものとす。(エッチングプライマー、指定色仕上)

幹線に取付ける線名札には、施工年月及び施工業者名を記入する。

建物直近のハンドホールでは、内部でケーブル1巻分の余長を取ること。

図面に特記なき場合は、別表-2による。

図面に特記なき場合は、別表-3による。

○別表-1

品目	機材等	適用
照明器具	LED照明器具(一般屋内用に限る)	
壁類	分電盤 (実験盤を含む)	
	制御盤	
	可変速運転用インバータ装置	
	照明制御装置	
高圧機器	キュービクル式配電盤	
	高圧交流遮断器	
	高圧変圧器	
	高圧進相コンデンサ	
	高圧限流ヒューズ	
	高圧負荷開閉器	
交流無停電電源装置	高圧スイッチギア (GW, PW)	
太陽光発電装置	パワーコンディショナー及び 系統連携系保護装置	
監視カメラ装置		
中央監視制御装置	監視制御装置	

○別表-2

名称	測点	取付高 (mm)	名称	測点	取付高 (mm)
取付用計器	地上 ～窓中心	1,500	表示器	床上 ～中心	天井高×0.9
引込開閉器	床上 ～中心	1,500	据付発信器	〃	1,300
分電盤、0A盤	〃	1,500	ベル・ブザー	〃	1,500～2,300
制御盤、実験盤	〃	(上端1,900以下)	チャイム	〃	
開閉器箱	床上 ～中心	1,500	壁付押ボタン	〃	1,300
電磁開閉器用 押ボタン	〃	1,300	インターホン	〃	1,300
接地極埋設標	地上 ～中心	600	外部受付用	〃	標準図による
給油ボックス	地上 ～給油口	1,000	壁付位置ボッ クス (一般)	〃	300～400
スイッチ	床上 ～中心	1,300	多目的 トイレ ホン	親機	〃
多機能トイレ スイッチ	〃	1,100		子機	〃
コンセント	一般	300		呼出 ボタン	〃
	換気扇	〃		復帰 ボタン	〃
	便所	〃		表示灯	〃
	エアコン	天井下 ～上端		親・子	〃
	台上	台上 ～中心	テレビ レヒビ 共同受 信機	直列ユニット (一般)	〃
	車庫	床上 ～中心		直列ユニット (和室)	〃
ブラケット	車椅子	天井下 ～上端	共同受 信機	機器収容箱	〃
	出入口	床上 ～中心		テレビ端子	〃
	浴室	〃		直列ユニット (台上)	〃
	踊り場	〃		機器収容箱	〃
動力	一般	〃	自動 火災報 知設備	発信機	〃
	鏡上	鏡上端 ～中心		火報受信機 (複合盤)	〃
	避難口誘導灯	床上 ～下端		警報ベル	〃
	廊下通路誘導灯	床上 ～上端		表示灯	〃
構内交換	手元開閉器	床上 ～中心	端子盤 (室内)	運動制御器 (自動閉鎖)	〃
	操作スイッチ	床上 ～中心		ガス漏れ 検知器	〃
	警報盤	床上 ～中心		LPガス	〃
	端子盤 (室内)	床上 ～上端		都市ガス	〃
電気交換	集合保安器箱	天井下 ～上端	端子 箱	接地用	〃
	電話用アウトレット	床上 ～中心		雷保護接地用	〃
	電話用アウトレット (台上)	台上 ～中心		端子盤 (EPS・電気室)	〃
	壁掛形観時計	床上 ～中心			
時計・拡声	電子時計	〃			
	壁掛形スピーカ	〃			
	壁付アンテナータ	〃			
	時報子時計	〃			

【備考】 天井高×0.9及び天井高×0.8は、天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。
取付高については、事前に監督員と協議する。

○別表-3

工 事 内 容				本工事	建築工事	機械設備 工事
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内			
			屋外			
			屋上			
			避雷針の基礎			
	機械関係	テレビアンテナ基礎	特記した基礎			
			屋内設備			
			屋上設備(架台、アンカーボルトを除く)			
			屋外設備()			
開口部	梁、床、壁 貫通スリーブ	補強を要するもの	補強を要しないもの			
			補強を要するもの			
			補強を要しないもの			
			補強を要するもの			
			補強を要しないもの			
			(アウトレットボックスは除く)			
			埋込形分電盤、 端子盤等の型枠			
			補強を要しないもの			
	軽量鉄骨下地 壁・天井・床 (アウトレットボックスは除く)	補強を要するもの	上配開口部の墨出し			
			上配開口部の補強			
			スリーブの穴埋め (型枠の穴埋めを含む)			
			OA フロアー配線器具用			
点検口	床、壁、天井					
外部取付ダクト	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む					
点検口	オイルサーピスタンの防油堤、タンク基礎					
床下水槽のマンホールふた						
ガス漏れ検知器						
消火栓組込み機器収納箱内配線整理用端子板						
湯沸室の排気フード						
換気扇	本体 取付枠					
流し台	本体 (排水トラップ共) 水栓					
浴 槽						
身障者用便所手摺り						
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線 (接地共) 機器付属の制御盤への電源供給配管配線 自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線 自動制御盤と動力盤との操作回路の渡り配管配線 機器と付属操作スイッチ等との渡り配線 機器と付属操作スイッチ等との渡り配管 機器と付属操作スイッチ 機器と付属操作スイッチの埋込ボックス 煙感知器から運動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る 配管配線 小便器用節水装置制御盤以降の配管配線 自動ドア及び電動シャッタなどの制御部への電源供給 自動ドア及び電動シャッタなどの制御部と操作スイッチ間の 配管配線及び操作スイッチ 防火扉リリース 電極棒 配線ビット及びふた 別途機器などへの接続	ボード・Tバー 照明ライン設備プレート 空調ライン設備プレート 電気錠及び通電金具 テンキー及び制御盤 杭工事 土工事 基礎工事 電気工事				
水道リモートメーターの配線						
水道リモートメーターの配線の結線と調査						

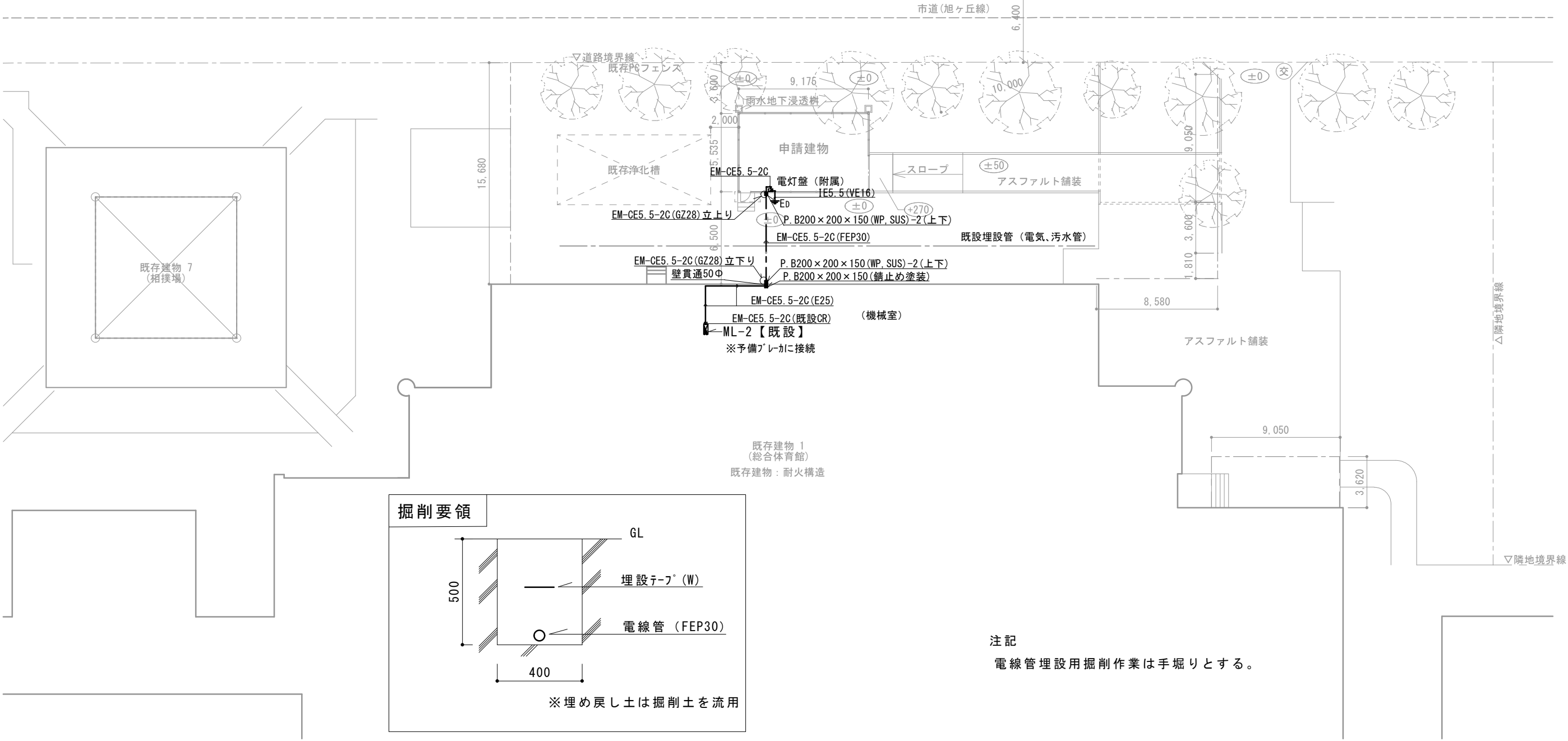
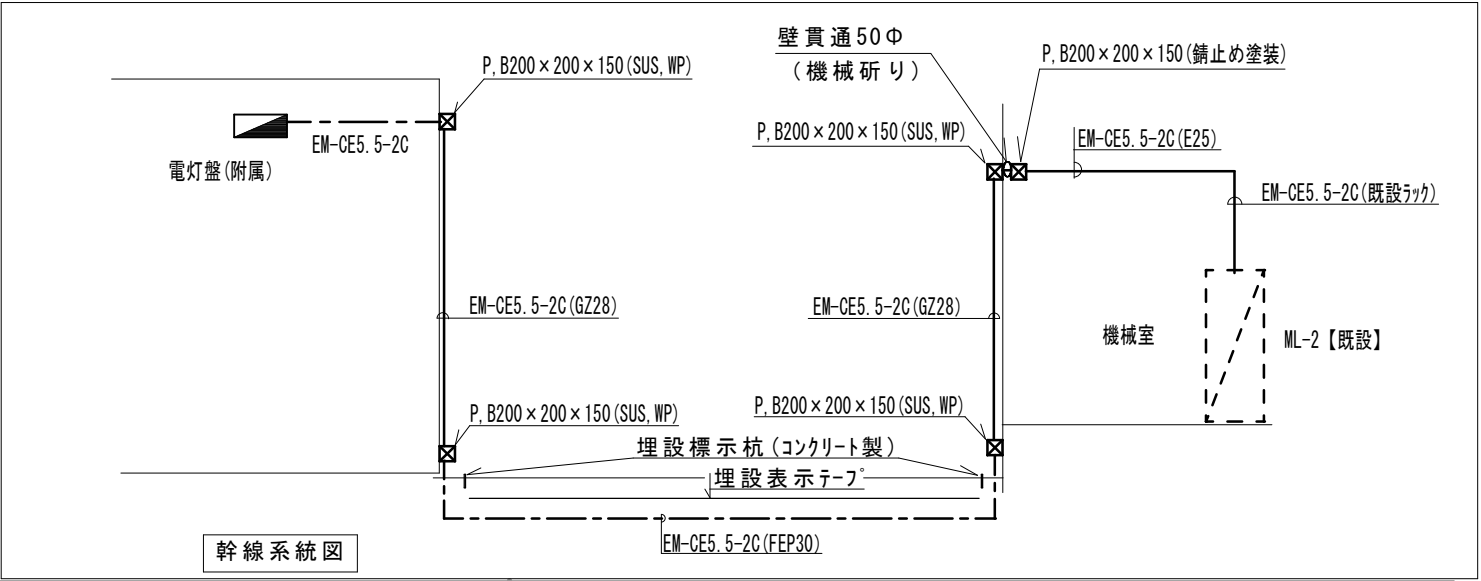
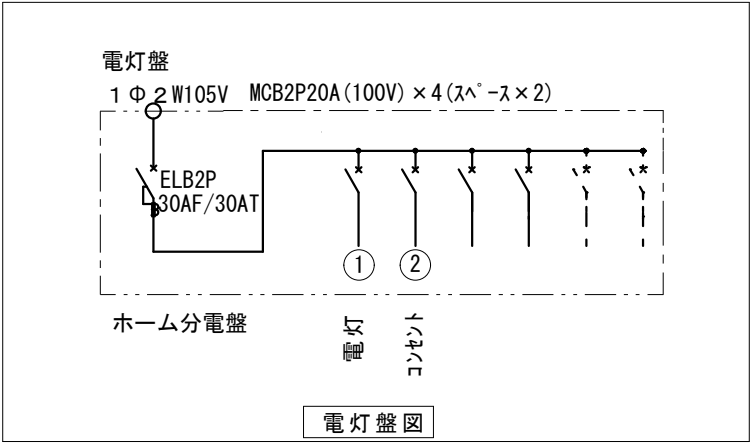
共通事項

工事名
07危防工第7号 SAGAプラザ防災倉庫新築工事
図面名
特記仕様書 (電気設備工事) その2

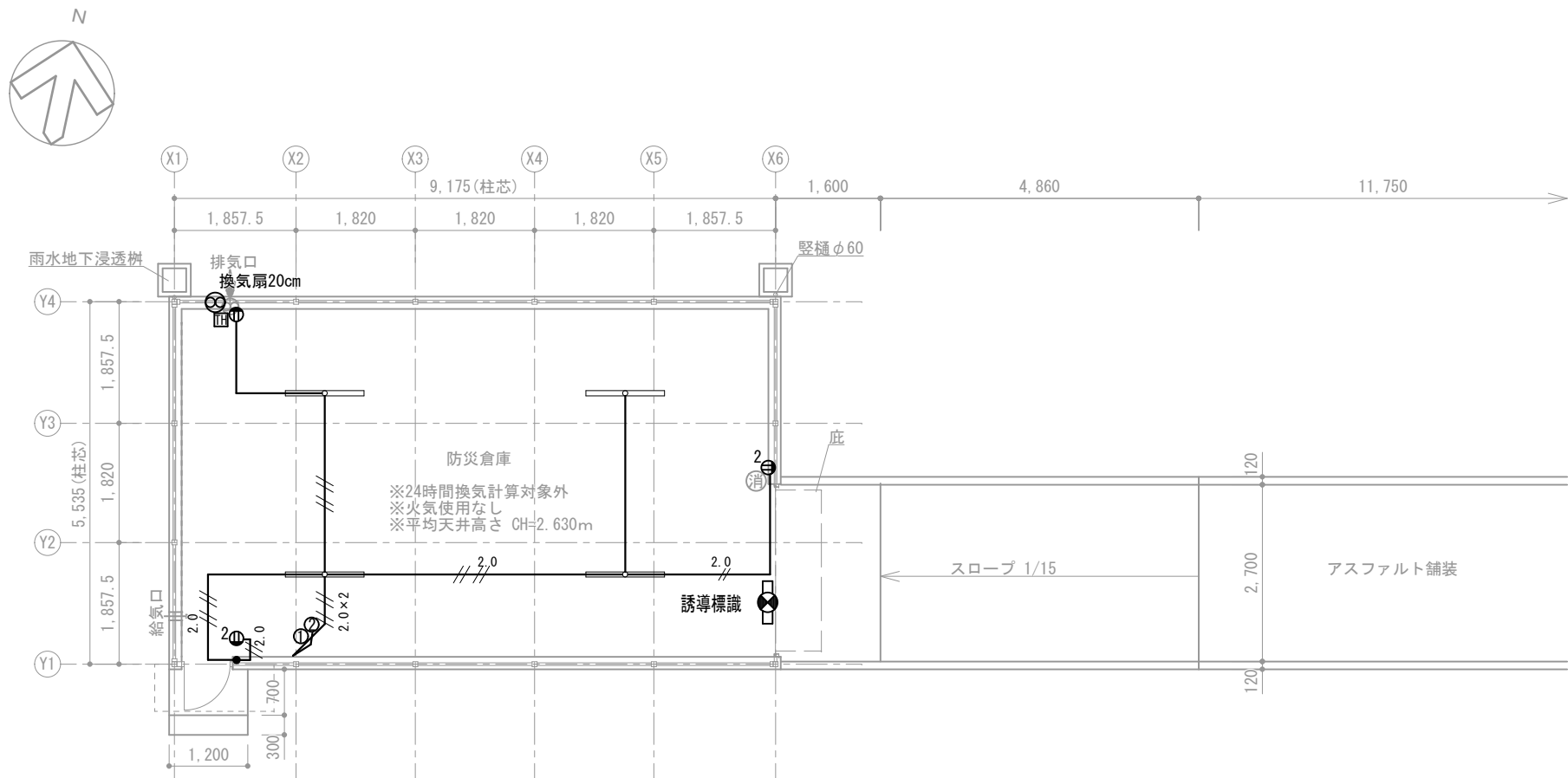
縮尺
—
設計
令和 年 月


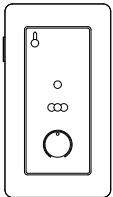

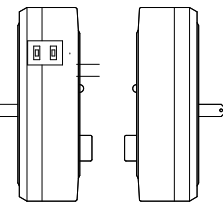
佐賀県危機管理防災課
一級建築士 登録 第 号

図番号
E-01-2



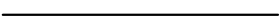
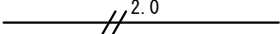
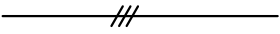
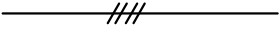
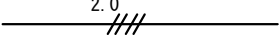
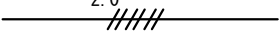
共通事項		工事名 S A G A プラザ防災倉庫新築工事	縮尺 S=1/300	佐賀県危機管理防災課	図番 E-02
		図面名 幹線設備平面図	設計 令和 年 月	1級建築士 第 号	



LSS9-2-30	温度スイッチ（7ﾀﾞﾌﾞﾙﾀｰ形）
	 <div>AC100V（单相） 3.5A</div>
	
高輝度蓄光式誘導標識 避難口用	

凡 例			
記 号	名 称	仕 様	備 考
	電 灯 分 電 盤	単線結線図による	
	埋込スイッチ	1P15A×1、LN4A×1 金属P付	
	埋込コンセント	2P15A×1 金属P付	
	”	2P15A×2 金属P付	
	温度スイッチ	AC100V 3.5A（7ﾀﾞﾌﾞﾙﾀｰ形）	参考 FY-ST030

注 記

特記なき配線は下記による。		
	EM-EEF1.6-2C	VE22
	EM-EEF2.0-2C	VE22
	EM-EEF1.6-3C	VE22
	EM-EEF1.6-2C×2	VE22
	EM-EEF2.0-2C+1.6-2C	VE28
	EM-EEF2.0-2C+1.6-2C×2	VE28